

仙台平野の遺跡群25

平成26年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

洞ノ口遺跡第21次、神棚遺跡第2次、六反田遺跡第12次・13次
大野田古墳群第20次・21次、大野田官衙遺跡第16～18次

2015年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

仙台市内には現在約 760 箇所の遺跡が確認されており、このうち約 610 箇所が一般に遺跡と呼ばれている埋蔵文化財包蔵地です。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災より 4 年が経ちますが、個人住宅等の建築に伴う発掘届の件数や発掘調査の件数は、平成 23 年度以降、震災前を上回る状況がずっと続いております。仙台市教育委員会といたしましては、復旧・復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護に日々務めているところです。

本報告書には、個人住宅建築に伴って平成 26 年度に発掘調査を実施した、洞ノ口遺跡第 21 次調査、神櫛遺跡第 2 次調査、六反田遺跡第 12 次・13 次調査、大野田古墳群第 20 次・21 次調査、大野田官衙遺跡第 16 ~ 18 次調査の調査結果を収録しています。

文化財は、地域の歴史を伝えるために将来へ守るべき大切な財産です。先人たちの遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちの大切な役割であると思います。地域が育んだ文化を語る上で歴史や文化資源がその根柢をなしているからです。つきましては、本報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただいた多くの方々に心より深く感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長 上田昌孝

例　　言

1. 本書は、平成 25 年度末から 26 年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書であり、洞ノ口遺跡第 21 次、神棚遺跡第 2 次、六反田遺跡第 12・13 次、大野田古墳群第 20・21 次、大野田官衙遺跡第 16～18 次の各発掘調査報告を合本にしたものである。

本書の内容は、すでに公開されている遺跡見学会資料や、各種の発表会資料に優先する。
2. 本書の本文執筆・挿図・表・写真図版の作成等については以下のように分担し、編集は鈴木隆が行った。

第 1 章・平間亮輔 第 2 章第 1 節・千葉悟・早坂純一 第 3 章第 1 節 黒田智章

第 4 章第 1 節 I・II・千葉悟、III・小泉博明 第 2 節 I・II・黒田智章 III・小泉博明

総括・鈴木隆

遺物の基礎整理～実測図作成 佐藤洋、向田整理室作業員

遺物図・遺構図デジタルトレース 鈴木隆、小林航

遺物観察表作成 佐藤洋

遺構註記表作成 各担当職員

遺物写真撮影・図版作成 千葉悟、早坂純一

遺構写真図版作成 早坂純一

3. 出土遺物の鑑定は、佐藤洋が行った。

4. 本書に係る出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 文中および図中の方位は概ね北を示している。

2. 図中の標高を測定した基準点のデータは平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以前に測定したものとそのまま使用している。

3. 遺構の略称は以下の通りで、遺構番号は各調査別の通し No である。

SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SE：井戸跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SX：性格不明遺構

P：ピット

4. 遺物の略称は以下のとおりである。

A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非クロクロ調整） D：土師器（クロクロ調整）・赤焼土器

E：須恵器 F：丸瓦 G：平瓦 H：その他の瓦 I：陶器 J：磁器 K：石器・石製品

L：木製品 N：金属製品 P：土製品

5. 土色については、「新版標準土色帳」（小山・竹原 1999）を使用した。

6. 遺物実測図中の網点は黒色処理を示している。

7. 遺物観察表の（ ）がついた数値は図上復元した推定値である。

8. 本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田 1980）はこれまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田 a 火山灰 (To-a)」と考えられている。降下年代は西暦 915 年と推定されている。

庄子貞夫・山田一郎 1980 「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城跡・昭和 54 年度発掘調査概報』
宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市教育委員会 2000 「沼向遺跡 第 1～3 次発掘調査」仙台市文化財調査報告書第 241 集

小口雅史 2003 「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田 a と白頭山（長白山）を中心に」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目 次

| | | | | |
|-----------------|--------------|----------|--|----|
| 第1章 調査計画と実績 | | | | |
| I 調査体制 | II 調査計画 | III 調査実績 | | |
| 第2章 宮城野区内の調査 | | | | 3 |
| 第1節 洞ノ口遺跡 | | | | 3 |
| I 遺跡の概要 | | | | 3 |
| II 第21次調査 | | | | 3 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ | | |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | | | |
| 第3章 若林区内の調査 | | | | 8 |
| 第1節 神棚遺跡 | | | | 8 |
| I 遺跡の概要 | | | | 8 |
| II 第2次調査 | | | | 8 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ | | |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | | | |
| 第4章 太白区内の調査 | | | | 16 |
| 第1節 六反田遺跡 | | | | 16 |
| I 遺跡の概要 | | | | 16 |
| II 第12次調査 | | | | 16 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ | | |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | | | |
| III 第13次調査 | | | | 26 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ | | |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | | | |
| 第2節 大野田古墳群 | | | | 32 |
| I 遺跡の概要 | | | | 32 |
| II 第20次調査 | | | | 32 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ | | |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | | | |
| III 第21次調査 | | | | 37 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ | | |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | | | |
| 第3節 大野田官衙遺跡 | | | | 41 |
| I 遺跡の概要 | | | | 41 |
| II 第16次調査 | | | | 41 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ | | |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | | | |
| III 第17次調査 | | | | 44 |

| | | |
|-----------------|--------------|--------|
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | |
| IV 第18次調査 | | 46 |
| 1. 調査要項 | 3. 基本層序 | 5. まとめ |
| 2. 調査に至る経緯と調査方法 | 4. 発見遺構と出土遺物 | |
| 第4節 郡山遺跡 | | 49 |
| 総括 | | 50 |

挿図目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 第1図 洞ノ口遺跡の位置と周辺の遺跡 | 3 |
| 第2図 第21次調査区位置図 | 4 |
| 第3図 第21次調査区配置図 | 4 |
| 第4図 第21次調査区平面図・断面図 | 5 |
| 第5図 第21次調査出土遺物 | 6 |
| 第6図 神櫛遺跡の位置と周辺の遺跡 | 8 |
| 第7図 第2次調査区位置図 | 9 |
| 第8図 第2次調査区配置図 | 9 |
| 第9図 第2次調査区平面図・断面図 | 10 |
| 第10図 第2次調査SII 竪穴住居跡平面図・断面図 | 11 |
| 第11図 第2次調査出土遺物(1) | 11 |
| 第12図 第2次調査出土遺物(2) | 12 |
| 第13図 第1次・第2次調査区合成図 | 12 |
| 第14図 六反田遺跡と周辺の遺跡 | 16 |
| 第15図 第12・13次調査区位置図 | 17 |
| 第16図 第12次調査区配置図 | 17 |
| 第17図 第12次調査区平面図・断面図 | 18 |
| 第18図 第12次調査出土遺物(1) | 20 |
| 第19図 第12次調査出土遺物(2) | 21 |
| 第20図 第12次調査出土遺物(3) | 22 |
| 第21図 第13次調査区配置図 | 26 |
| 第22図 第13次調査区平面図・断面図 | 27 |
| 第23図 第13次調査SII 竪穴住居跡平面図・断面図 | 27 |
| 第24図 第13次調査出土遺物 | 29 |
| 第25図 第20・21次調査区位置図 | 32 |
| 第26図 第20次調査区配置図 | 32 |
| 第27図 第20次調査区平面図・断面図 | 33 |
| 第28図 第20次調査出土遺物 | 34 |
| 第29図 第21次調査区配置図 | 37 |
| 第30図 第21次調査区平面図・断面図 | 37 |

| | |
|-------------------------------|----|
| 第31図 第21次調査区位置図 | 39 |
| 第32図 平成22年度15A調査区・第21次調査区合成図 | 39 |
| 第33図 大野田官衙遺跡全体図 | 41 |
| 第34図 第16次調査区配置図 | 42 |
| 第35図 第16次調査区平面図・断面図 | 42 |
| 第36図 第17次調査区配置図 | 44 |
| 第37図 第17次調査区平面図・断面図 | 44 |
| 第38図 第18次調査区配置図 | 46 |
| 第39図 第18次調査区平面図・断面図・SIIベルト断面図 | 47 |
| 第40図 第18次調査出土遺物 | 48 |
| 第41図 郡山道路調査区位置図 | 49 |

挿表目次

| | |
|--------------------|---|
| 表1 個人専用住宅に伴う発掘調査一覧 | 2 |
|--------------------|---|

写真図版目次

| | |
|---------------------|----|
| 写真図版1 第21次調査(1) | 6 |
| 写真図版2 第21次調査(2) | 7 |
| 写真図版3 第21次調査出土遺物 | 7 |
| 写真図版4 第2次調査(1) | 13 |
| 写真図版5 第2次調査(2) | 14 |
| 写真図版6 第2次調査出土遺物 | 15 |
| 写真図版7 第12次調査 | 23 |
| 写真図版8 第12次調査出土遺物(1) | 24 |
| 写真図版9 第12次調査出土遺物(2) | 25 |
| 写真図版10 第13次調査(1) | 30 |
| 写真図版11 第13次調査(2) | 31 |
| 写真図版12 第13次調査出土遺物 | 31 |
| 写真図版13 第20次調査(1) | 35 |
| 写真図版14 第20次調査(2) | 36 |
| 写真図版15 第20次調査出土遺物 | 36 |
| 写真図版16 第21次調査 | 40 |
| 写真図版17 第16次調査 | 43 |
| 写真図版18 第17次調査 | 45 |
| 写真図版19 第18次調査 | 48 |
| 写真図版20 第18次調査出土遺物 | 48 |

第1章 調査計画と実績

I. 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課

平成 25 年度

【文化財課】課長 吉岡恭平

【調査調整係】係長 斎野裕彦 主査 平間亮輔 主任 村上とよ子

主事 小泉博明 鈴木隆 黒田智章

文化財教諭 佐藤高陽 早坂純一 千葉悟 千葉靖彦

専門員 篠原信彦 佐藤洋

【整備活用係】係長 長島栄一 主任 斎藤克己

主事 及川謙作

文化財教諭 石山智之 伊藤翔太 橋本勇人

専門員 木村浩二

平成 26 年度

【文化財課】課長 吉岡恭平

【調査調整係】係長 斎野裕彦 主査 平間亮輔 主任 村上とよ子 鈴木隆

主事 小泉博明 黒田智章 小林航

文化財教諭 早坂純一 千葉悟 千葉靖彦 小山紘明

専門員 佐藤洋

【整備活用係】主幹兼係長 長島栄一 主任 斎藤克己

主事 及川謙作

文化財教諭 石山智之 伊藤翔太 橋本勇人

専門員 木村浩二

II. 調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、「個人専用住宅補助事業費」として、総額7,686千円（このうち補助金額3,796千円）の予算で26件の調査を計画した。

III. 調査実績

平成 25 年度第4四半期から平成 26 年度第4四半期にかけて（平成 26 年 2 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日まで）実施された調査は表1のとおりで計 33 件である。このうち本書に収録したのは平成 26 年 9 月 30 日までに終了したもので、25 年度分を含めて 11 件である。

平成 25 年度 個人専用住宅に伴う発掘調査一覧（平成 26 年 2 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日） 調査面積 118.5m²

| 調査No | 道路名 | 所在地 | 対象面積 | 調査面積 | 調査期間 | 遺構・遺物 | 届出等No | 報告書 |
|--------|--------|--------|-------|------|---------------|-----------|-------------|------|
| H25-75 | 洞ノ口道路 | 宮城野区岩切 | 64.5 | 20.0 | 2 月 3 日～4 日 | 溝路、ピット | H25 123-398 | — |
| H25-76 | 西台畠道路 | 太白区郡山 | 138.7 | 27.7 | 2 月 12 ～13 日 | 遺構無・遺物僅少 | H25 123-363 | — |
| H25-77 | 神機道路 | 若林区沖野 | 74.5 | 15.0 | 2 月 10 ～19 日 | 堅穴住居・溝など | H25 123-168 | 2 次 |
| H25-81 | 大野田古墳群 | 太白区大野田 | 85.1 | 15.8 | 3 月 3 日 | 小溝跡、遺物僅少 | H25 123-374 | — |
| H25-82 | 六反田道路 | 太白区大野田 | 72.2 | 20.0 | 3 月 3 日～10 日 | 堅穴住居・小溝など | H25 123-415 | 13 次 |
| H25-86 | 袋来道路 | 太白区長町南 | 90.1 | 20.0 | 3 月 17 日～20 日 | 遺構・遺物無 | H25 123-414 | — |

平成 26 年度 個人専用住宅に伴う発掘調査一覧（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日） 調査面積 406.0m²

| 調査No | 道路名 | 所在地 | 対象面積 | 調査面積 | 調査期間 | 遺構・遺物 | 届出等No | 報告書 |
|--------|---------|-------------|-------|------|---------------|-------------------|-------------|-------|
| H26-1 | 郡山道路 | 太白区郡山 3 丁目 | 79.9 | 15.8 | 4 月 3 日 | 全面覆瓦・遺構遺物無 | H25 123-386 | 231 次 |
| H26-4 | 郡山道路 | 太白区郡山 5 丁目 | 58.0 | 16.0 | 4 月 10 日 | 土坑・ピット・遺物無 | H25 123-452 | — |
| H26-5 | 大野田官衙道路 | 太白区大野田 | 65.8 | 16.0 | 4 月 17 日 | 溝？ | H26 106-11 | 17 次 |
| H26-6 | 大野田官衙道路 | 太白区大野田 | 106.1 | 28.0 | 4 月 18 日～22 日 | 堅穴住居跡 | H26 106-14 | 18 次 |
| H26-9 | 大野田古墳群 | 太白区大野田 | 83.6 | 15.9 | 5 月 8 日～9 日 | 溝路・土坑・ピット・遺物少 | H25 123-392 | 21 次 |
| H26-12 | 松森城道路 | 泉区松森 | 93.6 | 10.0 | 5 月 19 日 | 遺構・遺物なし | H26 106-42 | — |
| H26-13 | 六反田道路 | 太白区大野田 | 95.3 | 20.0 | 6 月 5 日 | 遺構・遺物なし | H26 106-62 | — |
| H26-21 | 上野道路 | 太白区富田 | 115.9 | 20.0 | 7 月 16 日～18 日 | 遺構・遺物なし | H26 106-126 | — |
| H26-31 | 洞ノ口道路 | 宮城野区岩切 | 79.2 | 16.0 | 9 月 1 ～3 日 | 遺路・土坑・井戸跡等・遺物少 | H26 106-163 | 21 次 |
| H26-33 | 浦ノ果道路 | 宮城野区岩切 | 54.2 | 12.0 | 9 月 11 ～12 日 | 溝跡・土坑 | H26 106-174 | — |
| H26-34 | 大野田道路 | 太白区大野田 | 92.9 | 16.8 | 9 月 16 日 | 遺構なし・遺物少 | H26 106-164 | — |
| H26-35 | 保春院前道路 | 若林区保春院前丁 | 75.8 | 12.0 | 9 月 18 日 | 溝路・遺物少 | H26 106-169 | — |
| H26-39 | 六反田道路 | 太白区大野田 | 51.8 | 18.0 | 9 月 29 日 | 遺構なし・遺物僅少 | H26 106-201 | — |
| H26-40 | 大野田古墳群 | 太白区大野田 | 75.0 | 20.0 | 10 月 6 ～7 日 | 小溝 2・ピット 7・遺物僅少 | H26 106-203 | — |
| H26-41 | 南小泉道路 | 若林区遠見塚 | 65.5 | 16.0 | 10 月 9 ～10 日 | 土坑 1・高壙など | H26 106-205 | — |
| H26-36 | 浦ノ果道路 | 宮城野区岩切 | 85.8 | 14.1 | 10 月 16 ～17 日 | 土坑 1・遺物少層 | H26 106-168 | — |
| H26-43 | 元袋道路 | 太白区大野田 | 84.5 | 16.0 | 10 月 20 ～23 日 | 遺路 1・小溝 1・P1・遺物僅少 | H26 106-252 | — |
| H26-50 | 南小泉道路 | 若林区南小泉 | 67.7 | 16.0 | 12 月 2 ～4 日 | 堅穴住居跡・井戸・土壙器 | H26 106-307 | — |
| H26-51 | 南小泉道路 | 若林区南小泉 | 63.8 | 16.0 | 12 月 4 ～5 日 | ピット | H26 106-308 | — |
| H26-52 | 南小泉道路 | 若林区遠見塚東 | 108.8 | 10.5 | 12 月 8 日 | 遺構・遺物なし | H26 106-302 | — |
| H26-54 | 南小泉道路 | 若林区南小泉 | 207.6 | 15.0 | 12 月 15 ～16 日 | 溝路・土坑・遺物僅少 | H26 106-317 | — |
| H26-56 | 南小泉道路 | 若林区遠見塚 | 70.0 | 12.0 | 1 月 7 ～8 日 | 溝路・土坑・土師器 | H26 106-322 | — |
| H26-59 | 浦ノ果道路 | 宮城野区岩切 | 50.6 | 12.0 | 1 月 15 日 | 溝跡 | H26 106-329 | — |
| H26-60 | 大野田官衙道路 | 太白区大野田 | 71.0 | 18.0 | 1 月 26 日～28 日 | 大溝跡 | H26 106-348 | — |
| H26-61 | 土舎道路 | 青葉区土舎 | 71.3 | 4.0 | 2 月 2 日 | 遺構・遺物なし | H26 106-265 | — |
| H26-62 | 安久東道路 | 太白区西中田 | 48.6 | 8.0 | 2 月 3 日 | 遺構・遺物なし | H26 106-339 | — |
| H26-63 | 南小泉道路 | 若林区遠見塚 1 丁目 | 70.0 | 11.9 | 2 月 9 日 | 遺構なし・遺物少 | H26 106-365 | — |

表 1 個人専用住宅に伴う発掘調査一覧

※ 郡山道路第 251 次調査は「郡山道路 35」に収録した。

第2章 宮城野区内の調査

第1節 洞ノ口遺跡

I 遺跡の概要

洞ノ口遺跡は、仙台市宮城野区岩切字洞ノ口、青津目に所在する。JR仙台駅の北東約8.0kmに位置し、七北田川左岸の自然堤防から後背湿地にかけて立地する。遺跡の範囲は、東西約0.8km、南北1.0kmで、標高は約5.0～8.0mである。洞ノ口遺跡の周辺には、国指定史跡岩切城跡をはじめ、東光寺遺跡、多賀城市新田遺跡など、多くの中世に属する遺跡が分布している。

洞ノ口遺跡は、古墳時代から近世にかけての複合遺跡であり、その中でも中世の遺構・遺物が主体を占める。

平成4(1992)年から開始された区画整理事業に伴う発掘調査の結果、自然堤防上に中世の屋敷跡と城館跡が確認された。13世紀に遡る屋敷地と15世紀後半から16世紀にかけての城館に大別される。屋敷地は13世紀末には溝跡で区画され、建物の規模や出土遺物から、武士層の居住域と考えられている。城館は、2時期の変遷がある。大規模な堀取り囲まれ、一部には土塁が認められる。その内部は溝でさらに区画されている。この城館跡については、岩切城跡やかつての街道に近い地理的な条件やその規模などから、留守氏に関わるものと考えられている。

II 第21次調査

1. 調査要項

遺跡名 洞ノ口遺跡（宮城県遺跡登録番号 01372）

調査地点 仙台市宮城野区岩切字洞ノ口165-3

調査期間 平成26年9月1日～9月3日

調査対象面積 建築面積79.22m²

調査面積 16.0m²

調査原因 個人住宅建築工事

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育委員会生涯学習部文化財課

調査調整係

担当職員 文化財教諭 千葉 悟

早坂 純一

小山 紘明

2. 調査に至る経緯と調査経過

今回の調査は申請者より平成26年8月4日付で提出

された、「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成26年8月5日付H26教生文第106-163号で回答)に基づき実施した。確認調査は平成26年9月1日に着手した。申請者側で設定した住居建設範囲の北西角を基点に東西南北とも1m内側に調査区基点を設定してそこから東西4.0m、南北4.0mの調査区を設定した。

遺構確認面(V層上面)までの深度は、近隣の調査例と同様、約GL-1.1mである。溝跡1条、土坑1基、井戸跡1基、ピット1基を検出した。遺物は中世陶器、青磁片が出土した。適宜、平面図および断面図、調査区配置図(S=1/20)を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。9月3日に埋め戻しを行い調査を完了した。



| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 立地 | 時代 |
|----|---------|-----------------|------|----------|
| 1 | 洞ノ口遺跡 | 集落跡・城館跡・屋敷跡・水田跡 | 自然堤防 | 古墳～近世 |
| 2 | 岩切城跡 | 城館跡 | 丘陵 | 中世 |
| 3 | 羽黒前通路 | 城館跡・宗教道路 | 丘陵 | 中世～近世 |
| 4 | 仁枝坂城跡 | 城館跡 | 丘陵 | 中世 |
| 5 | 東光寺横穴墓群 | 横穴墓 | 丘陵斜面 | 古墳 |
| 6 | 東光寺遺跡 | 城館跡・石窟仏郡・寺跡・碑群 | 丘陵斜面 | 中世 |
| 7 | 若宮前通路 | 城館跡・信仰道路 | 丘陵斜面 | 繩文・古墳～近世 |
| 8 | 今市董跡 | 集落跡・包合地 | 自然堤防 | 古代～中世 |
| 9 | 鴻ノ巣遺跡 | 城館跡・屋敷跡・水田跡 | 自然堤防 | 弥生～中世 |
| 10 | 新田遺跡 | 集落跡・屋敷跡 | 自然堤防 | 繩文・古墳～中世 |

第1図 洞ノ口遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)



第2図 第21次調査区位置図 (1/2,500)

3. 基本層序

調査区内の基本層は3層確認した。

検出面である基本層V層上面の深度は GL -1.10m である。

4. 発見構造と出土遺物

遺構は溝跡1条、土坑1基、井戸跡1基、ピット2基を検出した。

(1) 溝跡

S D 1 溝跡

調査区南側で確認した。方向は東西方向で、上端幅は1.4m、深さ約40cmである。周辺の調査成果で報告されている区画溝の可能性がある。堆積土は暗褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

(2) 土坑

S K 1 土坑

調査区北東側で確認した。井戸跡SE1と接している。梢円形を呈し、規模は東西1.8m南北1.2m以上である。深さは15cmである。堆積土は2層に分層でき、1層はIV層に類似した黒褐色粘土質シルト、2層は炭化物層である。遺物は、中国龍泉窯系蓮弁文青磁碗（14世紀・第5図1）、菊花文の押印がある常滑産甕（13～14世紀・第5図3）が出土した。

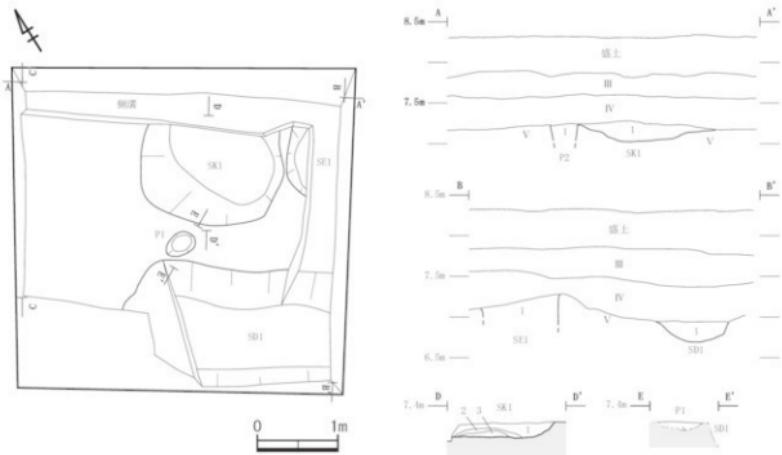
(3) 井戸跡

SE 1 井戸跡

調査区北東端で検出した。規模は東壁に接しており、径や深さは不明である。東壁断面の観察ではほぼ垂直にV層を切っており、井戸跡と推定した。堆積土は1層であり、IV層に類似した黒褐色シルトである。遺物は出土しなかった。



第3図 第21次調査区配置図 (1/400)



| 基本層 | 別位 | 土 色 | 土 質 | 備 考 |
|-----|-----|------------|--------|--------------------------------|
| | III | 10YR4/4褐色 | シルト | 径3～5mmの礫を少量含む |
| | IV | 10YR3/3黒褐色 | 粘土 | 耕作土、Ⅴ層土を斑状に含む。炭化物粒（径5～10mm）を含む |
| | V | 10YR2/2褐色 | シルト質粘土 | 遺構確認面 |
| SD1 | 1 | 10YR3/3黒褐色 | シルト | 10～30mmの礫を少量含む |
| SK1 | 1 | 10YR3/4黒褐色 | 新土質シルト | 1.5～7mmの炭化物粒を含む |
| | 2 | 10YR2/4黒色 | 炭化物 | 約2cm程度の層 |
| SE1 | 1 | 10YR3/3黒褐色 | 新土質シルト | Ⅴ層土を斑状に含む。炭化物粒（径5mm程度）を含む。 |
| P1 | 1 | 10YR3/3黒褐色 | シルト | 5YR5/8明赤褐色の塊上ブロック（径5～10mm）混入 |
| P2 | 1 | 10YR3/3黒褐色 | シルト | 5YR5/8明赤褐色の塊上ブロック（径5～10mm）混入 |

第4図 第21次調査区平面図・断面図 (1/60)

(4) ピット

ピット1は調査区南側V層上面で検出した。指円形を呈し、規模は南北20cm、東西30cmである。深さは15cm程度である。堆積土は1層であり、IV層に類似した黒褐色シルトであるが、5YR5/8明赤褐色の焼土ブロックが多数混入している。遺物は出土しなかった。ピット2は調査区北側壁断面のみの検出である。

(5) 遺構外出土遺物

V層上面から中世陶器3点、瓦質土器1点、鉄製品1点（種別不明）、被熱痕跡のある骨片2点が出土した。中世陶器は、白石窯産擂鉢（第5図2）、古瀬戸灰釉瓶子（写真図版3-3）を図示、掲載した。

5.まとめ

今回の調査地点は、洞ノ口遺跡の南西に位置する。今回の調査において溝1条、土坑1基、井戸跡1基、ピット2基を検出した。SD1は城館あるいは屋敷内の区画溝の可能性がある。遺物の年代は、13～14世紀を中心とする。在地および非在地の中世陶器のほか、中国龍泉窯系の青磁碗が出土しており、当該期の屋敷に伴うものとみられる。



| 掲載番号 | 写真 | 登録番号 | 出土遺構 | 出土層位 | 種別 | 器種 | 残存 | 法量(cm) | | | 調査 | | 備考 |
|------|-----|------|------|------|----|----|------|--------|----|----|-----------------|------------|------------|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | |
| 1 | 3-1 | J-1 | SK1 | V層上面 | 青磁 | 碗 | 口縁部分 | (15.6) | — | — | 蓮瓣文(片切り加工) | 筋116条 | 中国磁器窯系、14c |
| 2 | 3-2 | J-2 | | | 陶器 | 盤 | 口縁部分 | — | — | — | 白石墨、13c後半~14c前半 | 常滑、13c~14c | |
| 3 | 3-4 | J-4 | SK1 | 陶器 | 盤 | 体部 | 体部片 | — | — | — | 菊花文押印 | 常滑、13c~14c | |
| 写真のみ | 33 | 13 | | V層上面 | 陶器 | 瓶子 | 体部 | — | — | — | 沈線文 | 吉備戸、灰釉、13c | |

第5図 第21次調査出土遺物



1. 調査区全景（西から）

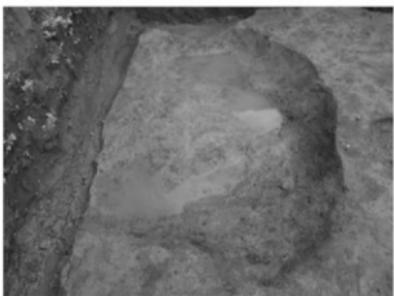


2. 調査区北壁断面（南から）

写真団版1 第21次調査(1)



1. SD1 溝跡断面 (西から)



2. SK1 土坑窓掘 (西から)

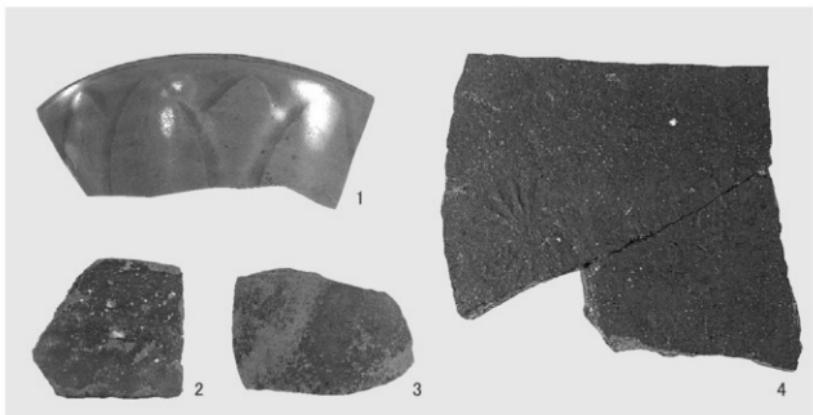


3. SK1 土坑断面 (西から)



4. SE1 井戸跡断面 (西から)

写真図版2 第21次調査(2)



写真図版3 第21次調査出土遺物

第3章 若林区内の調査

第1節 神柵遺跡

I. 遺跡の概要

神柵遺跡は、仙台市若林区沖野に所在する。JR 仙台駅の南東約4.3kmに位置し、広瀬川の左岸に形成された標高約9mの自然堤防上に立地する。遺跡の大きさは南北約130m、東西約120mで、面積は約14,500m²である。周辺には近接して砂押Ⅰ遺跡、砂押Ⅱ遺跡、中柵西遺跡などの古墳時代から平安時代にかけての遺跡が分布している。また、遺跡の北東約500mには、弥生時代から近世の複合遺跡である南小泉遺跡があり、遺跡の東約450mには、中世城館である沖野城跡がある。

南側隣接地で平成3年度に実施された第1次調査では、8世紀中葉から第4四半期の真北方向を基準にした掘立柱建物跡や一本柱跡などが検出され、須恵器の出土量が比較的多く、円面鏡や「玉」の線刻銘のある土師器が出士している事などから、郷などに関わる何らかの公的施設の存在が推測されている。今回の調査に当たっては、これら奈良時代の建物群に関連する遺構の検出が想定された。

II. 第2次調査

1. 調査要項

遺跡名 神柵遺跡

(宮城県遺跡登録番号 01251)

調査地点 仙台市若林区沖野二丁目280番4

調査期間 平成26年2月10日～2月20日

調査対象面積 建築面積74.52m²

調査面積 15.0m²

調査原因 個人住宅建築工事

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課

調査調整係

担当職員 主事 黒田智章

文化財教諭 千葉靖彦

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成25年7月23日付

で提出された、「埋蔵文化財発掘の届出」(平成25

月7月31日付H25教生文第123-168号で回答)に

に基づき実施した。確認調査は平成26年2月10日に着手した。申請者側が設定した建築範囲に、3×5mの調査区を設定した。重機により盛土および基本層Ⅰ・Ⅱ層(旧水田耕作土)を掘削した。さらにⅢ層を掘り下げ、基本層

Ⅳ層上面で遺構確認作業を行い、堅穴住居跡1軒、溝跡1条、土坑1基を検出した。平面図、住居跡断面図、カマドエレベーション図、調査区東壁断面図、南壁断面図等を作成し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

調査終了後、重機により転圧をかけながら埋戻しを行った。



| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 立地 | 時代 |
|----|-------|-------------|------|-----------------------|
| 1 | 神柵遺跡 | 建物跡・包含地 | 自然堤防 | 奈良、平安 |
| 2 | 石林城跡 | 円墳・集落跡・城跡 | 自然堤防 | 古墳・平安、中世、近世 |
| 3 | 南小泉遺跡 | 集落跡・屋敷跡 | 自然堤防 | 弥生・古墳・奈良、平安、中世、近世 |
| 4 | 砂押Ⅰ遺跡 | 散布地 | 自然堤防 | 古墳・奈良、平安 |
| 5 | 沖野城跡 | 城館跡 | 自然堤防 | 中世 |
| 6 | 砂押Ⅱ遺跡 | 散布地 | 自然堤防 | 古墳・奈良、平安 |
| 7 | 中柵西遺跡 | 散布地 | 自然堤防 | 弥生・古墳・奈良、平安 |
| 8 | 郡山道跡 | 官衙後・寺院跡・包含地 | 自然堤防 | 調査後・晚・弥生・古墳(末期) |
| 9 | 北日城跡 | 城館跡・集落跡・水田跡 | 自然堤防 | 調査後・弥生・古墳・奈良、平安・中世、近世 |

第6図 神柵遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)

3. 基本層序

調査区内の盛土は約0.6mで、盛土以下の基本層は大4層を確認した。今回の遺構検出面である基本層IV層上面までの深さは約0.9mである。詳細は別表を参照。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、基本層IV層上面で竪穴住居跡1軒、溝跡1条、土坑1基を検出した。

(1) 竪穴住居跡

S D 1 竪穴住居跡

【位置】調査区東側で検出した。【新旧関係】他の遺構との重複関係はない。床面は新旧2面を検出した。【形態・規模】西辺の一部しか検出していないため、全体の平面形は不明だが、方形または長方形であると考えられる。規模は、南北約2.5m以上、東西約2.0m以上である。【堆積土・構築土】1～7層を確認した。1～4層および6層は住居内堆積土で、1層は黒色の炭化物を薄く縞状に何層も含む。5層は新床面構築土。7層は旧床構築土である。【壁面】やや外傾して立ち上がる。

【カマド】旧床に伴うカマドを、住居跡西辺で2基検出した。

南側のAカマドは幅0.4m・奥行0.7m、北側のBカマドは幅0.3m・奥行0.3m、住居壁を外側に掘り込んで燃焼部が構築されている。AカマドがBカマドより古いとみられる。カマドは新床構築土（5層）に覆われており、新床に伴うカマドは調査区外に存在するとみられる。南側のAカマドでは、堆積土中から須恵器鉢が出土した。【掘方】ほぼ平坦だが、西辺に沿う部分が浅く崖む。【出土遺物】須恵器・土師器・平瓦の破片が少量出土している。このうち、4層出土の須恵器壺1点、須恵器甕2点、Aカマド出土の須恵器鉢1点を図示した。

(2) 溝跡

S D 1 溝跡

【位置】調査区西側で検出した。【形態・規模】北西から南東方向にのびる溝跡である。長さ1.5m以上、幅約0.3m、深さ約0.14mで、断面形は皿状を呈する。【堆積土】灰黄褐色粘土質シルト。【出土遺物】遺物は出土していない。

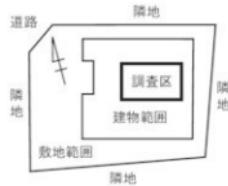
(3) 土坑

S K 1 土坑

【位置】調査区南西隅で検出した。【形態・規模】部分的な検出にとどまるため、形態や規模等は不明である。長軸約0.45m以上である。【堆積土】灰黄褐色粘土質シルト。【出土遺物】遺物は出土していない。



第7図 第2次調査区位置図 (1/2,500)



第8図 第2次調査区配置図 (1/400)

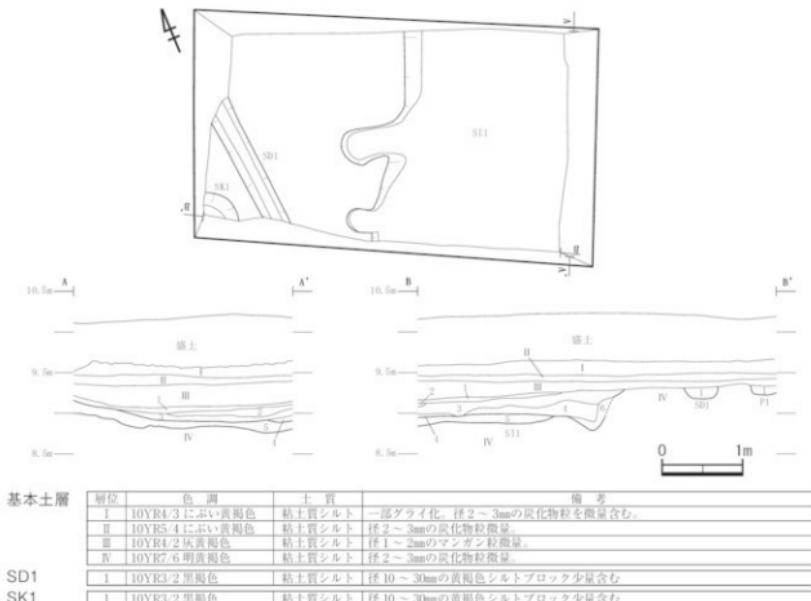
5.まとめ

今回の調査地点は、神柵遺跡の北部に位置する。今回の調査では、竪穴住居跡1軒、溝跡1条、土坑1基を検出した。竪穴住居跡は神柵遺跡で初めての発見となる。住居跡は新旧2面の床面を持ち、旧床に伴う2基のカマドもそれぞ

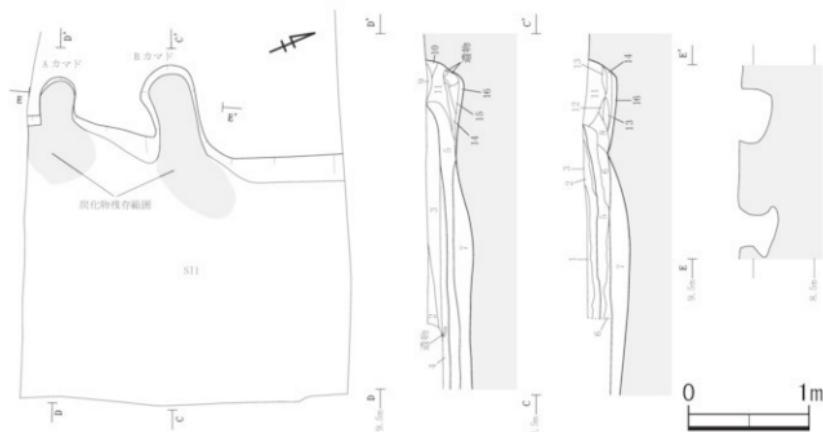
れ新旧を有するところから、この住居はある程度の期間使用されたと考えられる。カマド燃焼部は住居壁を外側に掘り込んで構築されている。このような構造は、典型的な在地のカマドとは異なる特徴である。出土遺物については、特に須恵器が一定量出土している点が第1次調査と同様であり、この遺跡の性格を考える上で示唆的である。このうち、竪穴住居跡のAカマドから出土した須恵器鉢（第12図1）は、山王遺跡 SD180A出土資料（多賀城市教育委員会 1991）や市川橋遺跡 SD1351B出土資料（多賀城市教育委員会 2003）などの類例から、8世紀後葉の年代が考えられる。今回の調査は対象範囲が限られたため、調査成果も限定的なものとなったが、本遺跡が通常の一般集落とは異なる特徴を有することが改めて明らかとなった。

参考文献

- 木村浩二 1995 「古代508 神柵道路」『仙台市史特別編2 考古資料』
 仙台市教育委員会 1992 「神柵道路」（仙台市文化財調査報告書第159集）
 多賀城市教育委員会 1991 「山王遺跡・第10次発掘調査概報」（多賀城市文化財調査報告書第27集）
 多賀城市教育委員会 2003 「市川橋遺跡・城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ」（多賀城市文化財調査報告書第70集）
 村田晃一 2000 「飛鳥・奈良時代の陸奥北辺」『宮城考古学』第2号
 村田晃一 2007 「v. 宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究（課題番号：15320111）』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書（研究代表者：辻秀人）

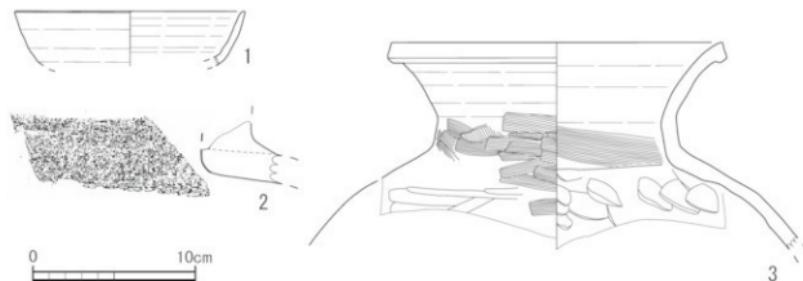


第9図 第2次調査区平面図・断面図（1/60）



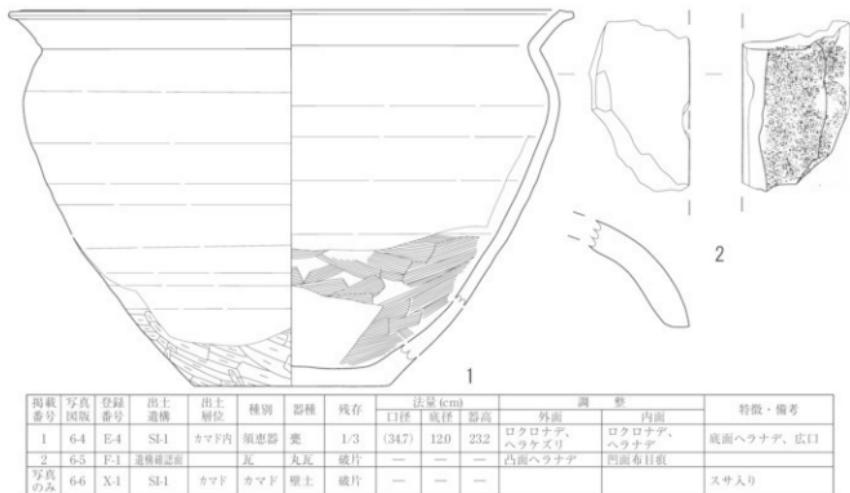
| 層位 | 色調 | 土質 | 備考 |
|----|-----------------|--------|--------------------------------------|
| 1 | 10YR3-2 黒褐色 | 粘土質シルト | 径10~30mmの黄褐色シルトブロック少量含む |
| 2 | 10YR4-1 創灰土 | 粘土質シルト | 炭化物を蘊藏状に含む |
| 3 | 10YR3-2 黒褐色 | 粘土質シルト | |
| 4 | 10YR4-1 創灰土 | 粘土質シルト | |
| 5 | 10YR4-1 創灰土 | 粘土質シルト | 径10~50mmの黄褐色シルトブロック少量、径2~5mm炭化物粒微量含む |
| 6 | 10YR7-6 明黄色 | 粘土質シルト | |
| 7 | 10YR7-6 明黄色 | 粘土質シルト | 径2~10mmの炭化物粒を少量含む |
| 8 | 10YR6-4 ないし 黄褐色 | 粘土質シルト | 径5~10mmの炭化物粒・径10~20mmの燒土塊を微量含む |
| 9 | 10YR3-3 創灰土 | 粘土質シルト | 粘土質シルト |
| 10 | 10YR6-4 ないし 黄褐色 | 粘土質シルト | 燒土ブロック多量含む |
| 11 | 10YR3-3 創灰土 | 粘土質シルト | 径5~10mmの炭化物粒・径10~20mm黄褐色シルトブロック少量含む |
| 12 | 5YR4-4 褐色 | 粘土質シルト | |
| 13 | 10YR6-4 ないし 黄褐色 | 粘土質シルト | 径10~20mmの炭化物粒少量 |
| 14 | 10YR4-1 創灰土 | 粘土質シルト | 炭化物多く含む |
| 15 | 7.5YR5-8 明黄色 | 粘土質シルト | 燒土塊 |
| 16 | 10YR2-1 黒色 | 粘土質シルト | 炭化物層 |

第10図 第2次調査SI1竪穴住居跡平面図・断面図(1/40)

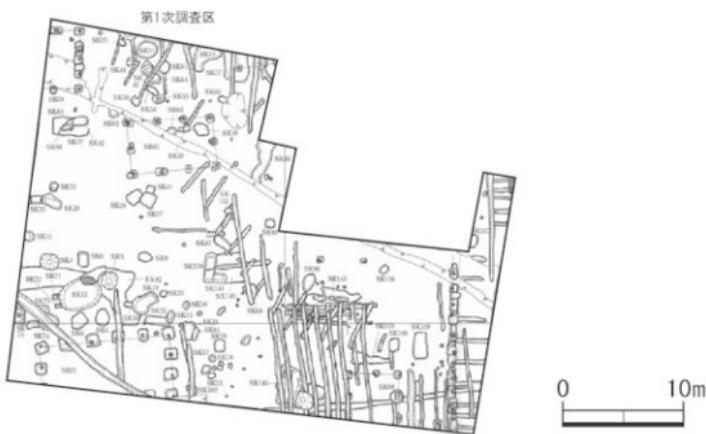


| 掲載番号 | 写真 | 登録番号 | 出土遺構 | 出土 | 種別 | 器種 | 残存 | 法量(cm) | | | 調整 | | 特徴・備考 |
|------|-----|------|------|----|-----|----|-------|----------|----|----|--------------------|------------------|---------|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | |
| 1 | 6-1 | E-1 | SI-1 | 3刷 | 須恵器 | 环 | 体部片 | (14.1) | — | — | ロクロナデ | ロクロナデ | |
| 2 | 6-2 | E-3 | SI-1 | 3刷 | 須恵器 | 甕 | 頭部編 | 頭部内径47.6 | — | — | ロクロナデ | ロクロナデ、青海波文 | 大型品 |
| 3 | 6-3 | E-2 | SI-1 | 3刷 | 須恵器 | 甕 | 上部2/3 | 20.3 | — | — | ロ緑ロクロナデ、 体部ヘラナズ | ロ緑ロクロナデ、あ て具組 | 内外磨滅・剥離 |

第11図 第2次調査出土遺物(1)



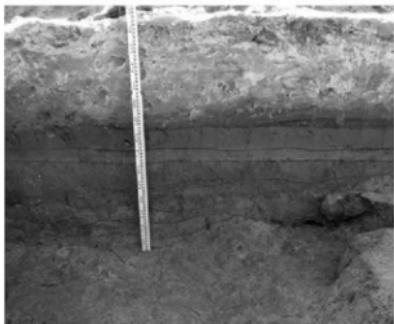
第12図 第2次調査出土遺物（2）



第13図 第1次・第2次調査区合成図（1/400）



1. SI1 新床検出状況（東から）



2. 調査区南壁断面（北から）



3. SI1 旧床検出状況（東から）



4. SI1 旧床検出状況（東から）



5. SI1 A カマドベルト（北東から）



6. SI1 A カマド断面（北東から）

写真図版 4 第2次調査（1）



1. SI1B カマドベルト（北東から）



2. B カマド断面（1）



3. SI1B カマド断面（2）



4. SI1A カマド須恵器出土状況（東から）

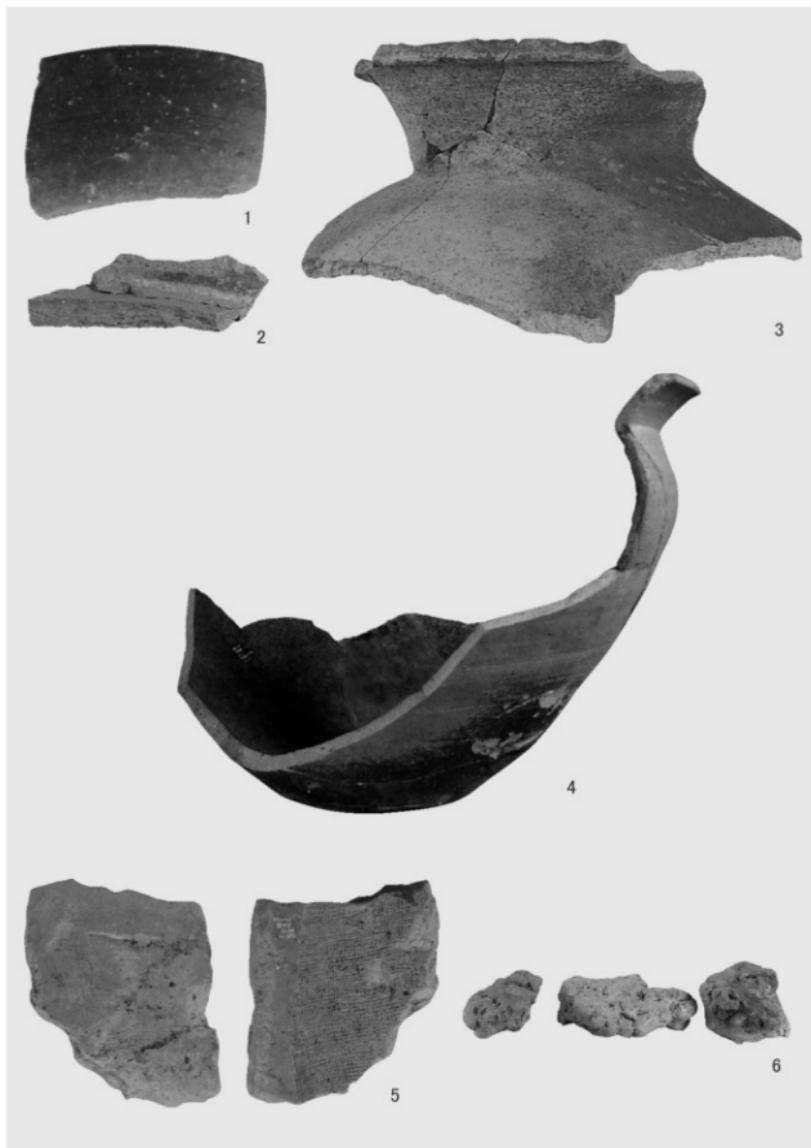


5. 遺構検出状況（東から）



6. 調査区全景（東から）

写真図版 5 第2次調査（2）



写真図版 6 第2次調査出土遺物

第4章 太白区内の調査

第1節 六反田遺跡

I. 遺跡の概要

六反田遺跡は、仙台市の南東部にある太白区大野田字六反田に所在する。JR仙台駅の南西約5.4kmに位置し、名取川の左岸に形成された標高11.0mほどの自然堤防上に立地する。遺跡は、東西約0.10km、南北約0.55kmの範囲におよび、面積は約77.000m²である。繩文時代から奈良時代の集落跡である下ノ内遺跡、多数の円墳が検出された大野田古墳群、奈良時代の官衙跡と推定されている大野田官衙遺跡などと隣接している。六反田遺跡は、繩文時代から近世にかけての複合遺跡である。発掘調査は1976(昭和51)年から開始された。平成6年度以降は「宮沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う発掘調査が行われ、その後も個人住宅建築に伴う発掘調査などが断続的に行われている。調査の結果、繩文時代中期後葉から後期初頭の集落、古墳時代の石棺墓・木棺墓、奈良時代から平安時代の集落跡が発見されている。さらに本遺跡と大野田古墳群、袋前遺跡に跨る形で大野田官衙遺跡がある。

II. 第12次調査

1. 調査要項

遺跡名 六反田遺跡(宮城県遺跡)

登録番号 01189

調査地点 仙台市太白区大野田

字六反田6-26-8, 6-9, 7-9, 1,

水路、堤の各一部

(23B-14L)

調査期間 平成25年11月27日

～12月6日

調査対象面積 建築面積95.07m²

調査面積 14.0m²

調査原因 個人住宅の新築工事

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局

生涯学習部

文化財調査調整係

担当職員 文化財教諭 千葉悟

千葉靖彦

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成25年9月25日付で提出された、「埋蔵文化財発掘の届出」(平成25年9月30日付H25教生文第123-253号で回答)に基づき実施した。

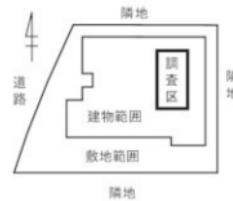


| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 立地 | 時代 |
|----|---------|---------|-----------|-------------|
| 1 | 六反田遺跡 | 集落跡 | 自然堤防 | 繩文～古代、近世 |
| 2 | 大野田古墳群 | 円墳 | 自然堤防 | 古墳 |
| 3 | 大野田官衙遺跡 | 官衙跡 | 自然堤防 | 古代 |
| 4 | 三神寺遺跡 | 集落跡 | 丘陵 | 繩文、平安 |
| 5 | 富田遺跡 | 混合跡、水田跡 | 後背湿地 | 後期旧石器～近世 |
| 6 | 泉崎遺跡 | 集落跡、水田跡 | 自然堤防、後背湿地 | 繩文～古墳、平安、近世 |
| 7 | 袋束遺跡 | 散在地 | 自然堤防 | 古墳～古代 |
| 8 | 山口遺跡 | 集落跡、水田跡 | 自然堤防、後背湿地 | 繩文～中世 |
| 9 | 元袋遺跡 | 集落跡、水田跡 | 自然堤防 | 弥生、古代～近世 |
| 10 | 下ノ内遺跡 | 集落跡、水田跡 | 自然堤防 | 繩文～中世 |
| 11 | 大野田遺跡 | 祭祀、集落跡 | 自然堤防 | 繩文～古代 |
| 12 | 富沢船跡 | 城船跡 | 自然堤防 | 中世 |
| 13 | 下ノ内遺跡 | 集落跡 | 自然堤防 | 繩文～奈良 |
| 14 | 伊古田遺跡 | 集落跡 | 自然堤防 | 繩文、古墳～古代 |
| 15 | 春日社古墳 | 円墳 | 自然堤防 | 古墳 |
| 16 | 鳥居屋古墳 | 後円後円墳 | 自然堤防 | 古墳中期 |
| 17 | 王ノ頭遺跡 | 集落跡、星敷跡 | 自然堤防 | 繩文～中世 |
| 18 | 殿治前遺跡 | 集落跡 | 自然堤防 | 平安 |
| 19 | 伊古田遺跡 | 集落跡、水田跡 | 自然堤防 | 古墳～古代 |
| 20 | 風屋敷遺跡 | 集落跡、星敷跡 | 自然堤防 | 古代、中世 |

第14図 六反田遺跡と周辺の遺跡(1/25,000)



第15図 第12・13次調査区位置図 (1/2,500)



第16図 第12次調査区配置図 (1/400)

対象地は、六反田遺跡の北西部にあたる。

確認調査は平成25年11月27日に着手した。申請者側が表示した建築範囲内に調査区を設定し、重機を用いて、盛土と耕作土である基本層Ⅰ層などを除去して、基本層V層上面で遺構検出作業を行った。その結果、竪穴住居跡1軒、溝跡1条、土坑1基、ピット3基を検出し、本発掘調査に移行した。調査では、必要に応じて、平面図および断面図を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真の撮影を行った。調査は、12月6日に調査区を埋め戻して終了した。

3. 基本層序

調査区内の盛土厚は約0.60mで、富沢駅周辺地区画整理事業に伴うものである。その直下に基本層を3層確認した。当該調査区の周辺では、平成6年度以降、富沢駅周辺地区画整理事業に伴う発掘調査などが断続的に行われており、これらの調査では、共通した基本層序が用いられている。今回の調査でも、これまでの調査成果に基づいて、基本層の分層を行っている。なお、本調査区では、過去の削平により、基本層Ⅱ～Ⅲ層が残存していない。

Ⅰ層：調査区全域に分布する。区画整理事業に伴う盛土以前の畑地耕作土で、3層に細分される。

Ⅱ層：部分的に分布する黒褐色シルトである。

Ⅳ層：調査区全域に黒褐色を呈する粘土質シルトで、黄褐色のシルトを斑状に含む。灰白色火山灰降下以前の畑耕作土もしくはその母材となった土壤と考えられる。

V層：調査区全域に分布する黄褐色を呈するシルトで、比較的均質である。今回の調査における遺構検出面である。

2層に細分される。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、V層上面で竪穴住居跡1軒、住居内の周溝内にピット3基、土坑1基、住居を切る溝跡1条を検出した。遺物は、基本層および遺構堆積土から土師器、須恵器、石製品、金属製品が出土している。

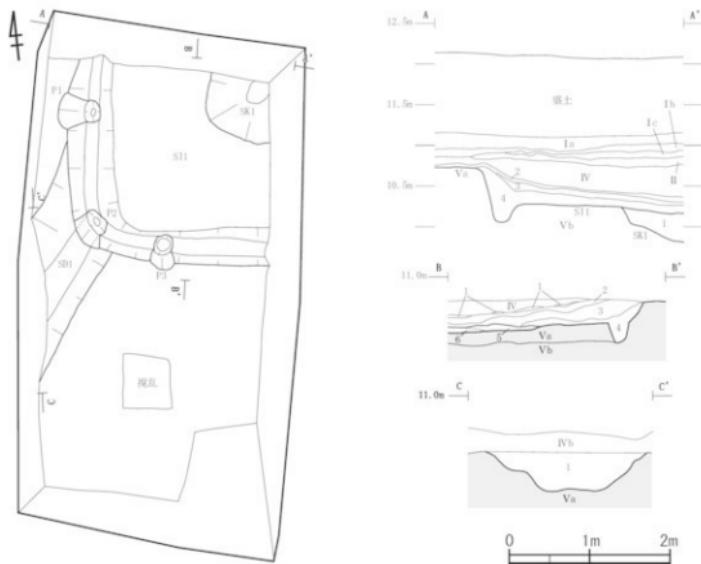
(1) 竪穴住居跡

S I 1 竪穴住居跡

V層上面で確認した。住居跡の西側と南側にかけて確認したが、北辺と東辺が調査区外となっている。規模は南

北23m以上、東西は2.5m以上である。確認面から床面までの深さは40~60cmである。床面は掘り込んだ面をそのまま利用しているが、部分的に掘方を20cm程度埋め戻して床面としている箇所もある。堆積土はシルトを主とし、埋没課程で基本層IV層が流れ込んでいる。

床面の施設としては、西壁と南壁際に周溝、周溝内にピット3基(P1~3)、調査区の北東端に土坑1基(SK1)を確認した。周溝は幅45~60cm、深さ約20cmである。周溝内のピットは、平面形の一部が住居外に張り出す不整な台形で大きさは30~50cm、深さは周溝底面から10~30cmである。その配置から壁柱穴である可能性が高いと考えられる。遺物はP1から土師器壺1点、須恵器壺1点が出土している。SK1は、北側と東側が調査区外に及んでいることから平面形や大きさは不明で、東西・南北共に80cm以上、深さは住居の床面から約60cmである。なお、カマドは確認できなかった。



| | 剖位 | 色調 | 土質 | 備考 |
|-----|------------------|-----|---------------------------|----|
| SII | 1 IOYR7/6 明黄褐色 | 砂 | 2 刷砂を斑状に含む | |
| | 2 IOYR3/3 姫褐色 | シルト | | |
| | 3 IOYR3/4 にぶい黄褐色 | シルト | | |
| | 4 IOYR3/3 姫褐色 | 粘土 | | |
| | 5 IOYR5/6 赤褐色 | シルト | 掘方埋土 7層土を径5~10mmのブロック状に含む | |
| | 6 IOYR3/3 姫褐色 | シルト | 掘方埋土 茶化物径3~10mmを含む | |
| SK1 | 1 IOYR5/3 にぶい黄褐色 | シルト | 10~15cmの礫を含む | |
| SD1 | 1 IOYR4/2 姫褐色 | シルト | 茶化物を径3mm~10mmのブロック状に含む | |

第17図 第12次調査区平面図・断面図(1/60)

遺物は、確認面から土師器片約50点（壺1・甕38、ロクロ土師器壺3・甕7）、須恵器片6点（壺4・甕2）、金属製品1点（釘）、堆積土中から土師器片約750点（壺24・甕540、ロクロ土師器壺101・甕81）、須恵器片約220点（壺219・高台壺1・瓶類3）、石製品2点（砥石）、金属製品4点（釘1・刀子1・鉄鏃1・手斧？1）、床面から土師器甕5点が出土している。図化できたのは、内外面にヘラミガキ調整された土師器小型甕1点（第18図1）、ロクロ調整の土師器甕4点（第18図3～6）、土師器甕2点（第18図2・7）、須恵器壺18点（第18図8～12、第19図1～12・14）、須恵器高台壺1点（第19図13）、須恵器長頸瓶3点（第20図1～3）、須恵器甕3点（第18図13、第20図4・5）、石製品2点（第20図6・7）、金属製品5点（第20図8～12）である。

図化できた須恵器壺は、すべて体部が直線的に開き底径がやや大きいタイプ（註1）であるが、底部の切離しと調整技法は、①回転糸切無調整のもの（第18図8・9）、②回転ヘラ切無調整のもの（第18図10・11、第19図4～7・9～12）、③回転ヘラケズリ調整のもの（第19図1～3）が混在している。

（2）溝跡

S D 1 溝跡

SIIによって切られている。調査区西壁から北へ向かって伸びており、幅は約1.1m、深さは約60cmである。遺物は須恵器壺1点・甕1点が出土している。

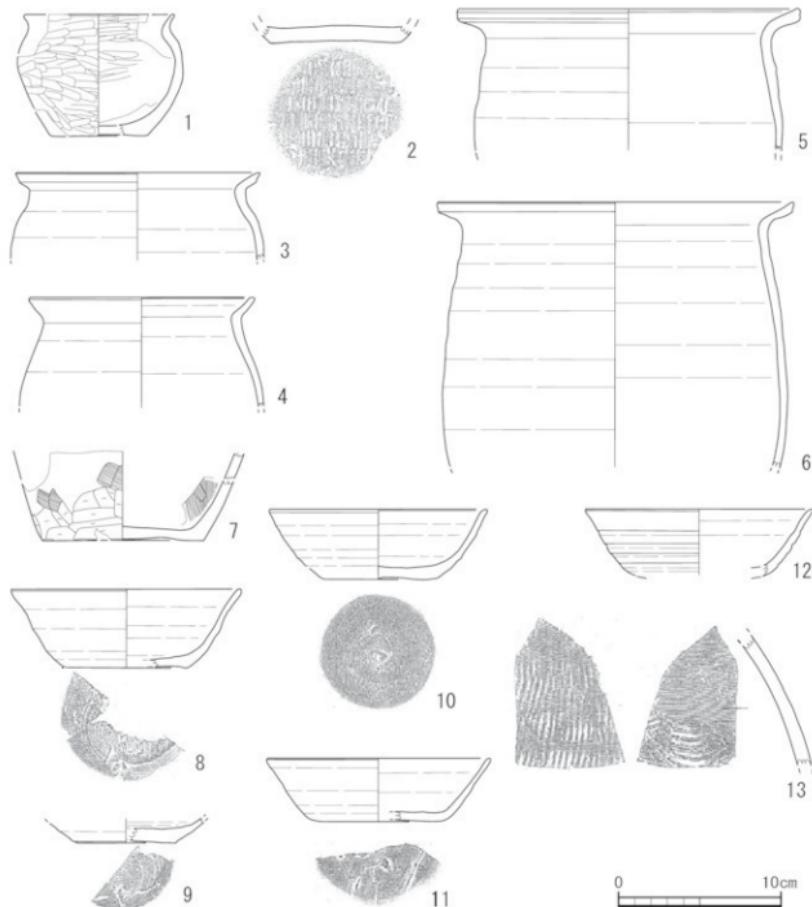
（3）遺構外出土遺物

基本層からも土器類を主体とする遺物が比較的多く出土している。基本層Ⅲ層から土師器壺1点、須恵器1点、基本層Ⅳ層上面から土師器甕133点、ロクロ土師器壺28点・甕33点、赤焼土器壺4点、須恵器壺16点・甕19点、金属製品刀子1点が出土している。また、出土地点が不明なものに須恵器壺1点、金属製品釘1点がある。

5.まとめ

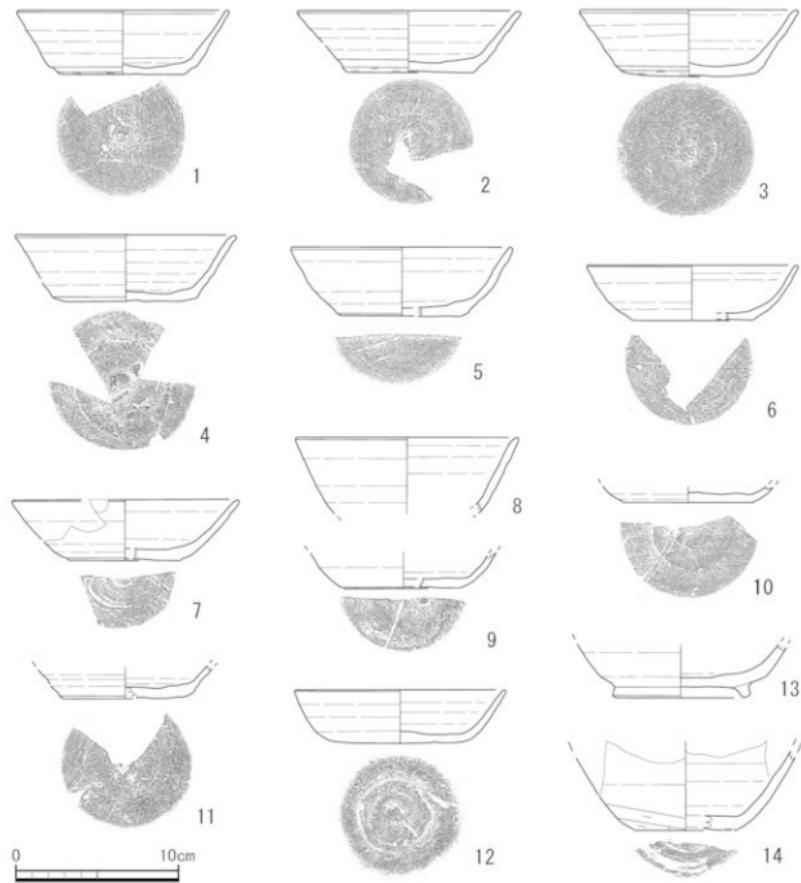
今回の調査地点は、六反田遺跡の北西部に位置する。調査ではV層上面において、竪穴住居跡1軒、溝跡1条を確認した。竪穴住居跡からは比較的まとまった数の遺物が出土したが、大部分が堆積土中からの出土であり、確実に遺構に伴う遺物を確定することはできなかった。このためSIIの年代を詳細に検討することはできないが、須恵器壺の底部の切離しと調整技法が3種類が混在する内、最も古い要素である回転ヘラケズリ調整のものが概ね8世紀中葉頃、回転ヘラ切無調整のものが8世紀末から9世紀前半頃と考えられること、土師器甕の多くがロクロ調整であることなどから、おおよそ8世紀後半から9世紀初頭頃までの広い幅で捉えておきたい。

（註1）法量が分かる11点の内、底径口徑比が0.49のE・13（第19図7）と0.63のE・9（第19図3）を除くと、0.53～0.58の範囲に9個体が入る。



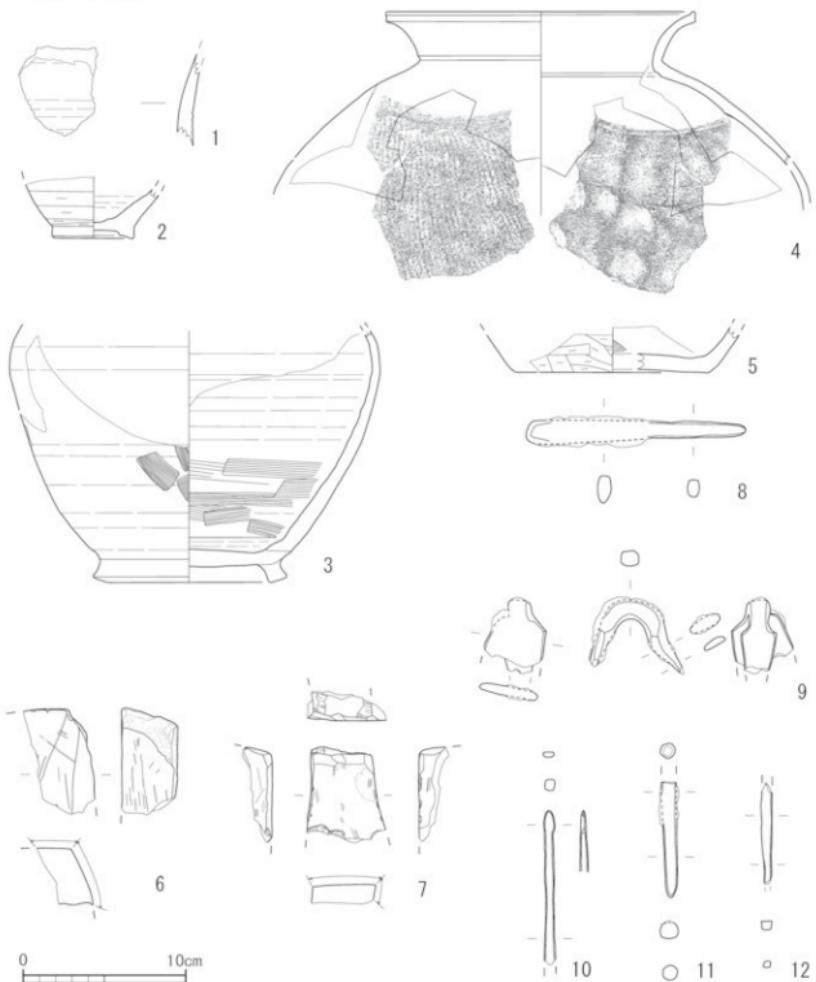
| 掲載 番号 | 写真 図版 | 登録 番号 | 出土 遺構 | 出土 位置 | 種別 | 器種 | 残存 | 法量 (cm) | 調査 | | 備考 |
|------------|----------|----------|----------|----------|-----|-----|----------------------------|---------|-------------|------------|--------------------------|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | |
| 1 8-1 | C-1 | S11 | 堆積土 | 土胎器 | 小型 | 3-4 | 口径 9.1 底径 6.0 高さ 7.5 | ヘラミガキ | ヘラミガキ・黑色包漿 | 素ロクロ | |
| 2 8-2 | C-2 | S11 | 堆積土 | 土胎器 | ? | ? | 底延片 | — | — | — | 波状上乳(あんぎん織か) 有孔(焼成前か) |
| 3 8-5 | D-2 | S11 | 堆積土 | 土胎器 | 环 | — | 口縁部片 | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — |
| 4 8-3 | D-3 | S11 | 堆積土 | 土胎器 | 小型 | 3 | 上部 1.4 (15.0) | — | ロクロナデ→ヘラナデ? | ロクロナデ | — |
| 5 8-4 | D-4 | S11 | 堆積土 | 土胎器 | 長筒型 | — | 上部 1.3 (13.8) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — |
| 6 8-6 | D-5 | S11 | 堆積土 | 土胎器 | 長筒型 | — | 上部 1.3 (21.8) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ→ヘラナデ |
| 7 8-8 | D-6 | S11 | 堆積土 | 土胎器 | 變形 | — | 底部付枝 | 9.8 | ヘラナデ→ハラズリ | ヘラナデ | — |
| 8 8-9 | E-4 | S11 | 堆積土 | 須臾器 | 环 | 1/3 | (14.2) (7.5) | 5.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転系切無調整 |
| 9 8-13 | E-3 | S11 | 堆積土 | 須臾器 | 环 | — | 底部 | (6.0) | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ |
| 10 8-10 | E-6 | S11 | 堆積土 | 須臾器 | 环 | 1/3 | 13.2 (7.4) | 4.3 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整 |
| 11 8-11 | E-5 | S11 | 堆積土 | 須臾器 | 环 | 1/3 | (13.6) (7.4) | 3.9 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ |
| 12 8-14 | E-1 | 不明 | 堆積土 | 須臾器 | 环 | 1/5 | (14.0) | — | ロクロナデ | 沈海底 | ロクロナデ |
| 13 8-15 | E-2 | R解 | 堆積土 | 須臾器 | 變形 | — | 体部片 | — | 平行タタキ→ハケ | 青海波文(あで具相) | — |

第18図 第12次調査出土遺物(1)



| 掲載番号 | 写真 図版 | 登録番号 | 出土遺構 | 出土層位 | 種別 | 器種 | 残存 | 法量(cm) | | | 調整 | 備考 |
|------|----------|------|------|------|-----|------|-------|--------|-------|-----|-------|------------------------|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | |
| 1 | 8-12 | E-7 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 1/3 | (13.0) | 7.3 | 4.0 | ロクロナデ | 回転ヘラ切→ヘラケズリ、火拂 |
| 2 | 8-16 | E-8 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 1/2 | (13.7) | 7.8 | 4.8 | ロクロナデ | 回転ヘラケズリ、火拂あり |
| 3 | 8-17 | E-9 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 2/3 | (13.3) | 8.4 | 4.1 | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整 |
| 4 | 8-18 | E-10 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 2/3 | (13.5) | 7.1 | 4.1 | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整 |
| 5 | 8-19 | E-11 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 1/2 | (13.6) | 7.9 | 4.2 | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整内底変色 |
| 6 | 8-20 | E-12 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 1/2 | (12.8) | 7.4 | 3.4 | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整 |
| 7 | 8-21 | E-13 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 1/5 | (13.9) | 6.8 | 3.7 | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整 |
| 8 | 9-1 | E-14 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 1/4 | (13.7) | — | — | ロクロナデ | ロクロナデ |
| 9 | 9-2 | E-15 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 底部片 | — | (7.1) | — | ロクロナデ | 回転ヘラ切→ヘラ搔沈嗣 |
| 10 | 9-3 | E-16 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 底部片 | — | (8.0) | — | ロクロナデ | 回転ヘラ切、火拂あり |
| 11 | 9-4 | E-17 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 底部片 | — | 7.6 | — | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整 |
| 12 | 9-12 | E-25 | SII | 擾乱面 | 須恵器 | 环 | 2/3 | (13.0) | 7.0 | 3.3 | ロクロナデ | 回転ヘラ切無調整、ヘラ搔× |
| 13 | 9-5 | E-18 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 高台付环 | 下半 | — | 8.5 | — | ロクロナデ | 回転系切→高台替付 胎土白色、搬入品か |
| 14 | 9-7 | E-20 | SII | 堆積土 | 須恵器 | 环 | 下半1/5 | — | (6.0) | — | ロクロナデ | 手持ヘラケズリ |

第19図 第12次調査出土遺物(2)



| 掲載番号 | 写真番号 | 登録番号 | 出土位置 | 出土年 | 種別 | 器種 | 残存 | 法量(cm) | | | 調査 | 備考 |
|------|------|------|------|-----|-----|------------|-------|--------|-------|-----|----------------------|------------------------------------------|
| | | | | | | | | 上口横 | 底径 | 器高 | | |
| 1 | 9-9 | E-22 | SII | 堆积土 | 須恵器 | 長頸瓶 | 頸部片 | — | — | — | ロクロナデ | ロクロナデ |
| 2 | 9-6 | E-19 | SII | 堆积土 | 須恵器 | 長頸瓶 | 底部片 | — | 4.9 | — | ロクロナデ | ロクロナデ→部分 ロクロナデ→下部 ロクロナデ→下部 ハラナデ |
| 3 | 9-11 | E-24 | SII | SK1 | 須恵器 | 長頸瓶 | 下半1/2 | — | 11.9 | — | ロクロロクロナデ | ロクロロクロナデ→下端 ハラナデ |
| 4 | 9-10 | E-23 | SII | 堆积土 | 甕 | 上部L/4(190) | — | — | — | — | ロクロロクロナデ ロクロナデ→下端 | あて具痕 表面磨耗 |
| 5 | 9-8 | E-21 | SII | 堆积土 | 須恵器 | 甕 | 底部片 | — | (118) | — | ロクロナデ、底部へ ハラケズリ | ラナデ |
| | | | | | | | | 孔存長 | 幅 | 厚さ | | 特徵・備考 |
| 6 | 9-13 | K-1 | SII | 堆积土 | 石製品 | 砾石 | 砾片 | 66 | 43 | 34 | 2面残存 | |
| 7 | 9-14 | K-2 | SII | 堆积土 | 石製品 | 砾石 | 砾片 | 59 | 49 | 18 | 片面残存 | |
| 8 | 9-19 | N-3 | SII | 堆积土 | 铁製品 | 刀子? | 刃先欠 | 135 | 19 | 0.9 | 刃部変形 | |
| 9 | 9-18 | N-4 | SII | 堆积土 | 铁製品 | 工具? | 刃先欠 | 48 | 38 | 10 | ねじれあり、小型手斧? | |
| 10 | 9-15 | N-1 | SII | 堆积土 | 铁製品 | 不明 | 部分 | 95 | 97 | 0.7 | 先端尖り、片側張り出字、縫? | |
| 11 | 9-16 | N-2 | SII | 堆积土 | 铁製品 | 釘? | 部分 | 71 | 11 | 11 | | |
| 12 | 9-17 | N-5 | 不明 | | 铁製品 | 釘? | 部分 | 63 | 0.7 | 0.5 | | |

第20図 第12次調査出土遺物(3)



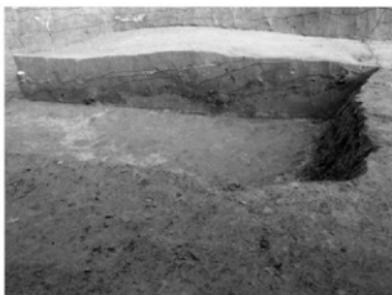
1. 調査区全景（北から）



2. 調査区北壁断面（南から）



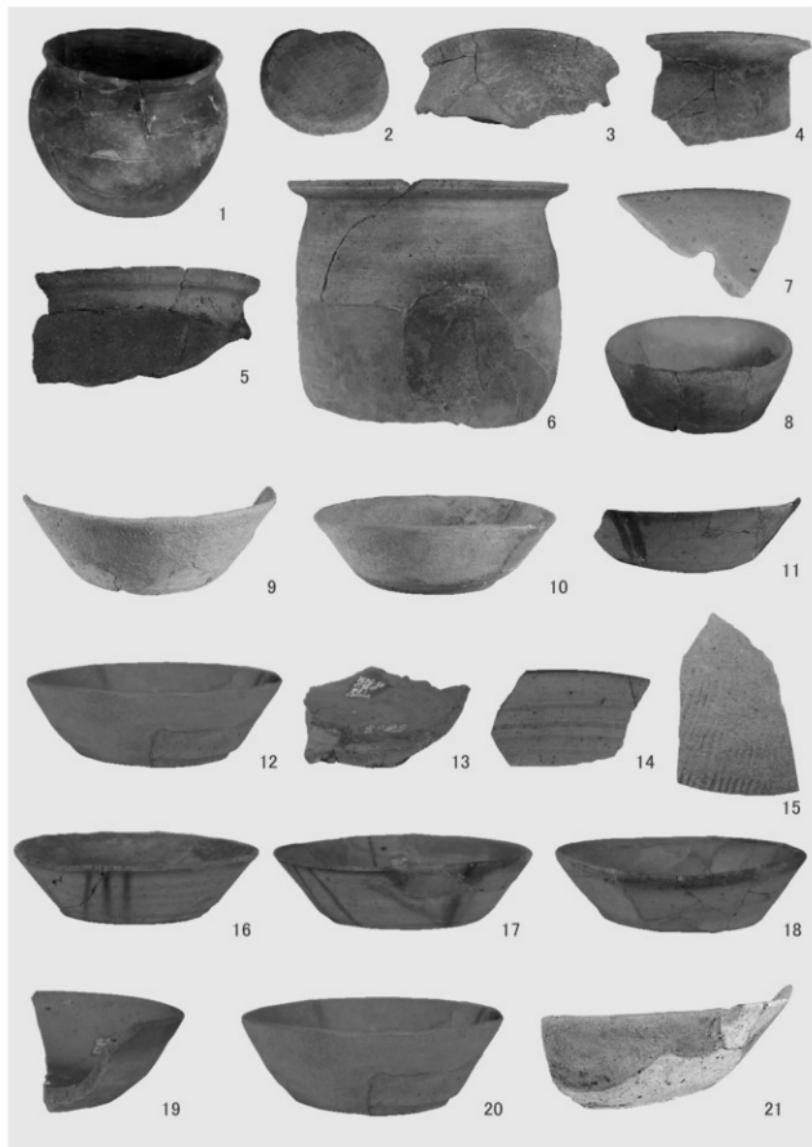
3. SI1 床面検出（南から）



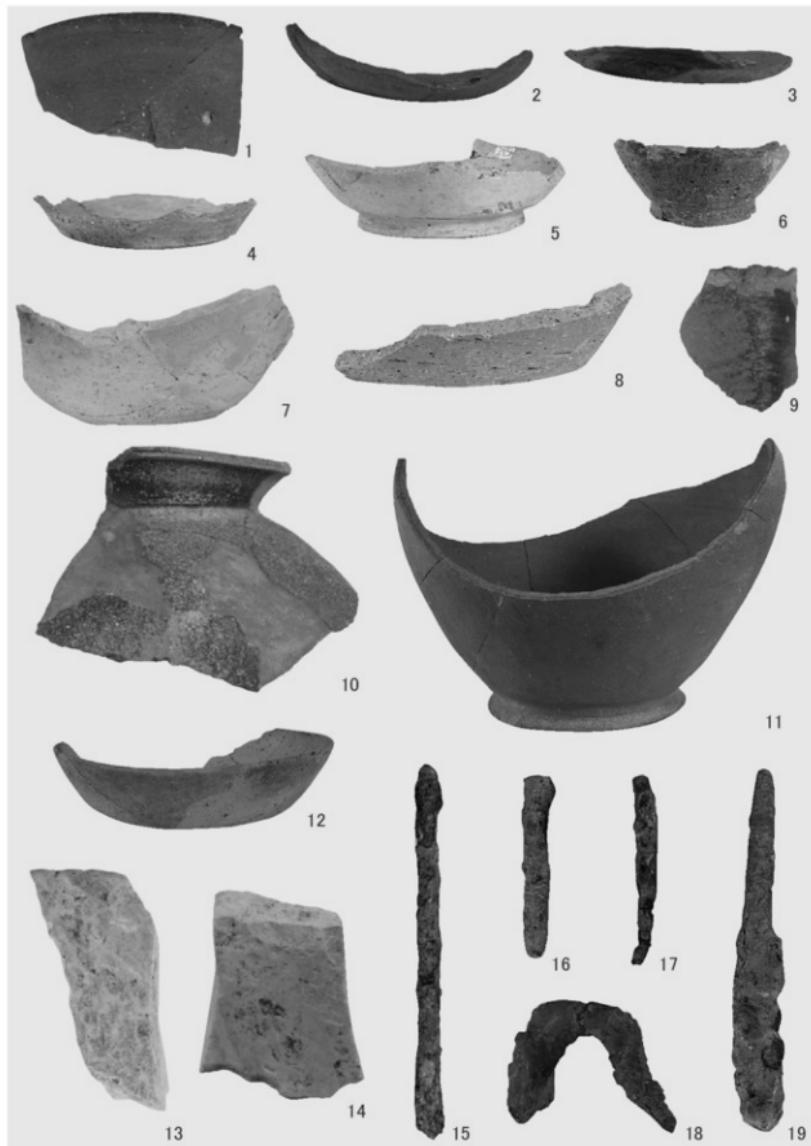
4. SI1 ベルト断面（西から）



5. SK1 遺物出土状況（西から）



写真図版 8 第12次調査出土遺物 (1)



写真図版9 第12次調査出土遺物(2)

III. 第13次調査

1. 調査要項

遺 跡 名 六反田遺跡（宮城県遺跡登録番号 01189）

調 査 地 点 仙台市太白区大野田字六反田 8-1,16-1,16-2,16-3 の各一部
(56街区 6画地)

調 査 期 間 平成 26年 3月 3日～3月 10日

調査対象面積 建築面積 72.70m²

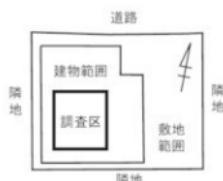
調 査 面 積 20.0m²

調 査 原 因 木造平屋建店舗併用個人住宅の新築工事、給排水設置工事

調 査 主 体 仙台市教育委員会

調 査 担 当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係

担 当 職 員 主事 小泉博明 文化財教諭 千葉悟 佐藤高陽 早坂純一



第22図 第13次調査区配置図
(1/400)

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、申請者より平成 26年 1月 31日付で提出された店舗併用個人住宅の新築工事および給排水設置工事に伴う文化財保護法第 93 条の「埋蔵文化財発掘の届出」（平成 26年 2月 5日付 H25 教生文第 123-415 号で回答）に基づき実施した。確認調査は平成 26年 3月 4日に着手した。建築範囲内に調査区を設定して、重機により基本層V層上面までを除去した。基本層V層上面で遺構検出を行い、竪穴住居跡 1軒、溝跡 6条、ピット 1基を確認した。調査では適宜、平面図と断面図を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。平成 26年 3月 10日に調査区の埋め戻しを行い、今回の発掘調査を終了した。

3. 基本層序

今回の対象地では、土地区画整理事業に伴って層厚約 0.5 m の盛土による宅地造成が行われている。調査では、この盛土下に大別 5 層、細別 7 層の基本層を確認した。なお、確認した基本層は富沢駅周辺地区画整理事業に伴う発掘調査で用いられた基本層序に対応させて層番号を付している。

I 層：2 層に細別される。I a 層は宅地化以前の水田耕作土、I b 層は上層の水田耕作土に伴う床土もしくはそれ以前の水田耕作土である。

II 層：黒褐色（10YR2/2）を呈する粘土質シルトである。中世の堆積層と考えられている。

III 層：にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈するシルトである。土地区画整理事業に伴う調査では、灰白色火山灰を含む調査地点も多く確認されている。

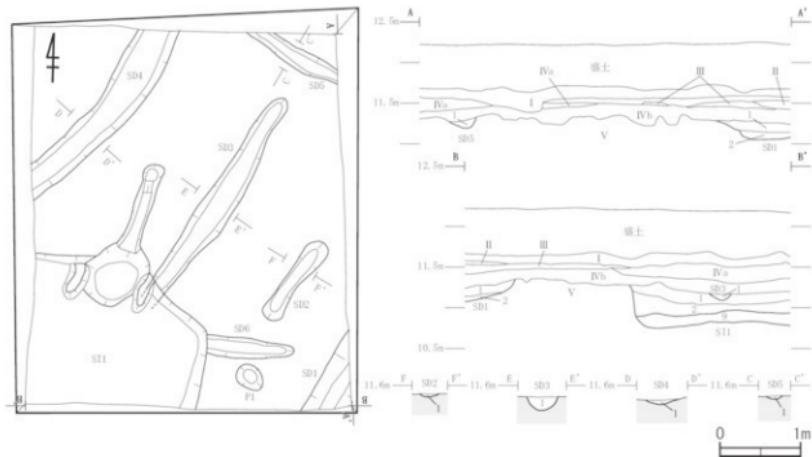
IV 層：2 層に細別される。a 層は暗褐色（10YR3/3）を呈する粘土質シルトで、炭化物を粒状に含む。b 層は黒褐色（10YR3/2）を呈する粘土質シルトで、基本層V層起源の黄褐色を呈する砂質シルトを斑状に含む。古墳時代から奈良・平安時代にかけての畑耕作土およびその母材となった土壤と考えられている。

V 層：黄褐色（2.5Y5/3）を呈する砂質シルトである。今回の調査における遺構検出面である。

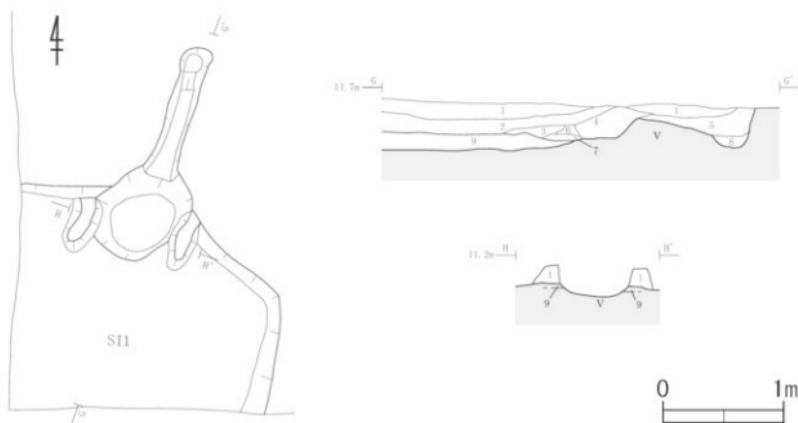
4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、竪穴住居跡 1 軒、溝跡 6 条、ピット 1 基を検出した。遺物は、遺構堆積土などから土師器を主体とする土器類が出土している。

（1）竪穴住居跡



第22図 第13次調査区平面図・断面図・遺構断面図（1/60）



第23図 第13次調査SI1 竪穴住居跡平面図・断面図 (1/40)

| 部位 | 色調 | 土質 | 備考 |
|----|----------------|--------|---------------------------|
| 1 | 10YR3/3 嫩褐色 | 粘土 | 炭化物粒ごく少量含む |
| 2 | 10YR3/3 嫩褐色 | 粘土 | 礫土粒、炭化物粒少量含む |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土 | 礫土粒、炭化物粒少量含む |
| 4 | 10YR3/2 黑褐色 | 粘土 | 礫土粒をやや多く含む。炭化物ごく少量含む |
| 5 | 10YR3/2 黑褐色 | 粘土 | 炭化物ブロックを少量含む |
| 6 | 10YR5/3 にぶく黄褐色 | 粘土 | |
| 7 | 5Y5/3 漢りーブ | 粘土 | 礫土を多量に含む |
| 8 | 10YR2/2 黑褐色 | 炭化物土体砂 | |
| 9 | 25Y5/3 | 砂質シルト | 黒褐色粘土シルトをブロック状に少量含む(縮方厘上) |

SI1 竪穴住居跡

調査区南西部で検出した。SD3 溝跡に切られ、SD6 溝跡を切っている。平面形は不明であるが、隅丸方形を基調としたものとみられる。規模は東西 2.20 m 以上、南北 1.90 m 以上である。床面から検出面までの壁高は約 0.30 m である。壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、掘方埋土を床面としている。カマドは住居北辺に敷設され、燃焼部が住居北辺の外側へや張り出している。カマド袖は暗灰黄色を呈する砂質シルトで構築されている。燃焼部は幅約 0.50 m、奥行約 0.45 m で、燃焼部底面に被熱による顯著な赤変硬化は認められなかった。燃焼部奥壁に約 0.15 m の段がついて、燃焼部底面から煙道に接続する。煙道は長さ約 1.10 m、上端幅 0.20 m、深さ約 0.15 ~ 0.25 m で、底面は煙出しピットへ向かって緩やかに傾斜し、先端には径約 0.25 m、深さ約 0.40 m の煙出しピットが付く。住居内の堆積土および埋土は 9 層に細別され、1 ~ 5 層が住居廃絶後の自然堆積土、6 層がカマド崩落土、7 ~ 8 層がカマドおよび煙道の機能時堆積土、9 層が住居掘方埋土である。遺物は、住居堆積土から土師器壺 3 点・甕 57 点、須恵器壺 2 点、住居掘方埋土から土師器壺 6 点が出土している。図示はしていないが、土師器壺には外面に段がつくものが含まれる。

(2) 溝跡

SD1 溝跡

調査区南東部で検出した北東～南西方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は 1.20 m で、規模は上端幅 0.50 m 以上、下端幅約 0.15 m で、深さ約 0.25 m である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 2 層に細別され、暗褐色と黒褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD2 溝跡

調査区南東部で検出した北東～南西方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約 1.15 m で、規模は上端幅 0.20 ~ 0.30 m、下端幅約 0.10 m で、深さ約 0.05 m である。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD3 溝跡

調査区中央部で検出した北東～南西方向の溝跡である。SI1 竪穴住居跡を切っている。検出長は約 3 m で、規模は上端幅 0.25 ~ 0.40 m、下端幅約 0.15 ~ 0.20 m で、深さ約 0.15 m である。断面形は U 字状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD4 溝跡

調査区北西部で検出した北東～南西方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約 2.80 m で、規模は上端幅 0.35 ~ 0.55 m、下端幅約 0.20 ~ 0.35 m で、深さ約 0.05 m である。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。遺物は土師器壺 1 点が出土している。

SD4 溝跡

調査区北東部で検出した北西から南東方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約 1.30 m で、規模は上端幅 0.20 ~ 0.35 m、下端幅約 0.20 ~ 0.35 m で、深さ約 0.05 m である。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD6 溝跡

調査区南東部で検出した東西方向の溝跡である。SII 竪穴住居跡に切られている。検出長は約 1.10 m である。規模は上端幅 0.15 ~ 0.25 m、下端幅約 0.10 ~ 0.15 m で、深さ約 0.05 m である。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

(3) ピット

ピット 1

調査区南東部で検出した。他の遺構との重複はない。平面形は梢円形を呈する。規模は長軸約0.35m、短軸約0.25mで、深さ約0.10mである。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。柱痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。

(4) 遺構外出土遺物

基本層IV層から土器器壺2点が出土している。

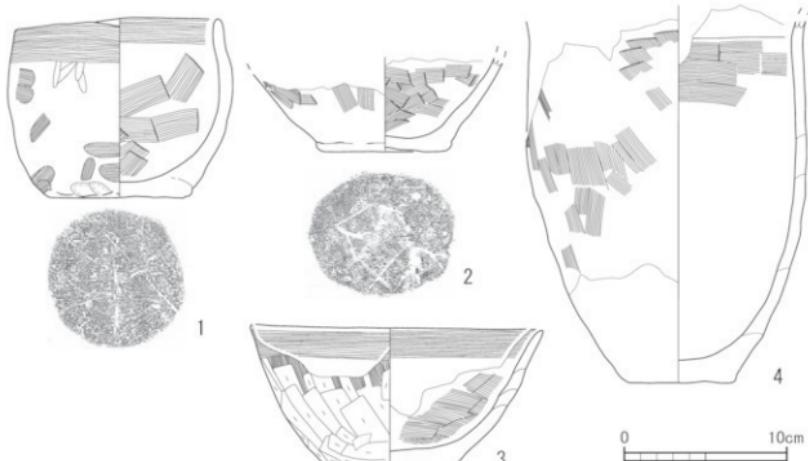
5.まとめ

今回の調査地点は、六反田遺跡の西部に位置する。富沢駅周辺地区画整理事業に伴い、平成22～23年度に実施され、堅穴住居跡や掘立柱建物跡などが多数検出された六反田遺跡7F区の南側に隣接する。今回の調査では、堅穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット1基を検出した。

SII堅穴住居跡は、部分的な検出ではあるが、残存状況は良好である。住居北辺に敷設されたカマドを検出した。カマドは燃焼部が住居北辺からやや張り出し、典型的なカマドとは異なる特徴が認められる。遺物はカマド周辺の床面および直上で比較的多くの土器器を主体とする土器類が出土している。これにはロクロ土器類は含まれていない。出土土器の構成や器形の特徴から、SII堅穴住居跡の年代は8世紀代と推定される。

溝跡は6条を検出した。このうち、SD1～5溝跡は、配置や規模から畠耕作に関わる小溝状構造群を形成するものと推定される。方向から北東～南西方向の1群（SD1～4溝跡）とこれに直行する北西～南東方向の2群（SD5溝跡）の2群に大別される。時期は、他の遺構との重複関係や基本層III層の年代観から、下限を10世紀初頭とする奈良時代から平安時代と考えられる。

以上のことから、今回の対象地やその周辺では、奈良時代から平安時代に堅穴住居跡および掘立柱建物跡で構成される集落が形成され、その後、畠地への変遷や同時期に居住城と生産城の混在があった可能性が推定される。



| 掲載番号 | 写真図版 | 登録番号 | 出土遺構 | 出土層位 | 種別 | 器種 | 残存 | 法量(cm) | | | 測定 | | 備考 |
|-------|------|------|------|------|-----|------|------|--------|------|---------------|--------------|-------------|----|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 厚さ | 外面 | 内面 | |
| 1 124 | C-1 | SI-1 | 堆積土 | 土器器 | 小型壺 | ほぼ完形 | 12.5 | 8.2 | 11.3 | 口縁部ヨコナデ、体部ハケメ | ヘラナデ | 底部木葉痕(2枚重ね) | |
| 2 122 | C-2 | SI-1 | 堆積土 | 土器器 | 壺 | 底部片 | — | 7.9 | — | 体部ヘラケズリ | ヘラナデ | 底部木葉痕(2枚重ね) | |
| 3 123 | C-4 | SI-1 | 堆積土 | 土器器 | 鉢 | 3/4 | 18.0 | 8.0 | 8.6 | 口縁部ヨコナデ、体部ハケメ | ヘラナデ、底部ヘラケズリ | 底部木葉痕 | |
| 4 124 | C-3 | SI-1 | 堆積土 | 土器器 | 長胴壺 | 上部欠 | — | 6.3 | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 底部木葉痕 | |

第24図 第13次調査出土遺物



1. 調査区全景（南から）



2. 東壁断面（西から）



3. SI1 竪穴住居跡カマド（南から）



4. SI1 竪穴住居跡ベルト断面（東から）



5. SI1 竪穴住居跡カマド断面（南東から）

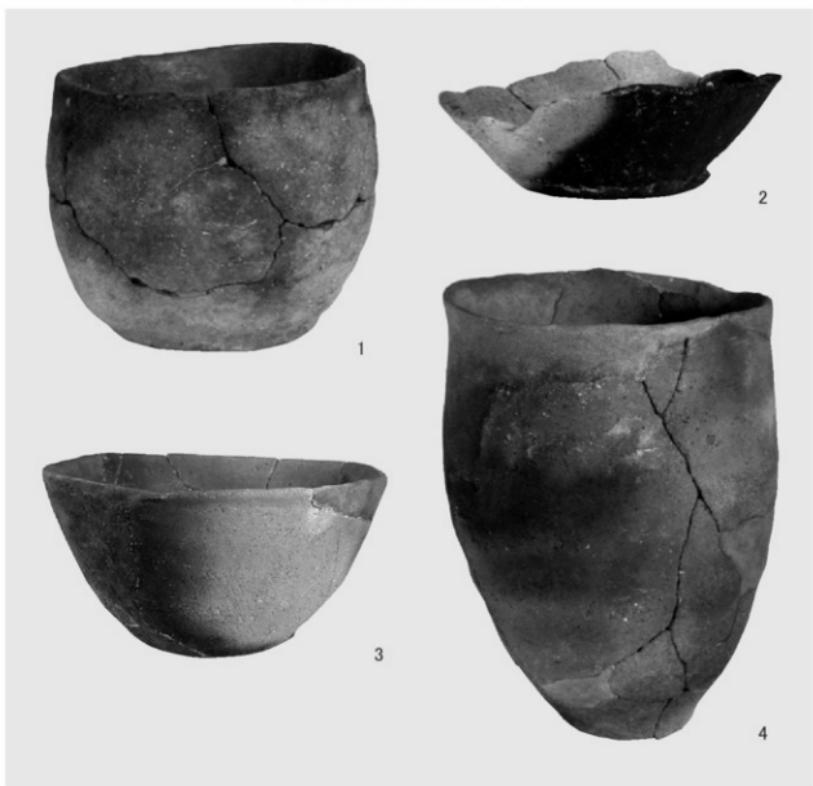


1. SI1 竪穴住居跡土器出土状況（西から）



2. SI1 竪穴住居跡掘方完掘（東から）

写真図版 11 第13次調査（2）



写真図版 12 第13次調査出土遺物

第2節 大野田古墳群

I. 遺跡の概要

大野田古墳群は、仙台市太白区大野田に所在する。地下鉄南北線富沢駅の東側に位置し、東西約600m、南北400mの広がりを有する。遺跡は、名取川下流左岸の標高10～12mの自然堤防上に立地しており、これまでに古墳時代中期から後期にかけての45基の古墳の存在が確認されている。多くの古墳に埴輪が伴っており、東北地方で最も埴輪樹立古墳が多い特異な古墳群であるとされている（藤沢2013）。このほか、木権墓や堅穴住居跡など、縄文時代および古墳時代から中世にかけての各時期の遺構や遺物が発見されている。

周辺は縄文時代から中世にかけて濃密な遺跡分布を示す。縄文時代では、北東に隣接する大野田遺跡で後期の祭祀に関連した遺構・遺物がみつかり、南西の伊古田B遺跡では同じく後期の土偶を含む多量の遺物が出土している。奈良時代には、遺跡北部で溝により囲繞された中に並ぶ大型の掘立柱建物跡群が検出されている大野田官衙遺跡が造営される。中世では、東側の王ノ塙遺跡で、「奥大道」と推定される幹線道路跡に面して、区画溝に囲まれた屋敷地や宗教関連遺構が確認されている。

II. 第20次調査

1. 調査要項

遺跡名 大野田古墳群

(宮城県遺跡登録番号01361)

調査地点 仙台市太白区大野田字竹松14、
15、29-2、29-3、29-4、道路、
水路の各一部(23街区9画地)

調査期間 平成25年12月3日～5日

調査対象面積 105.58m²

調査面積 24.0m²

調査原因 個人住宅新築工事

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育生涯学習部

文化財課調査調整係

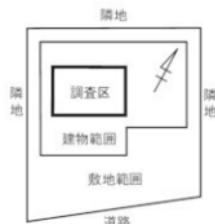
担当職員 主事 黒田智章 文化財教諭 佐藤高陽

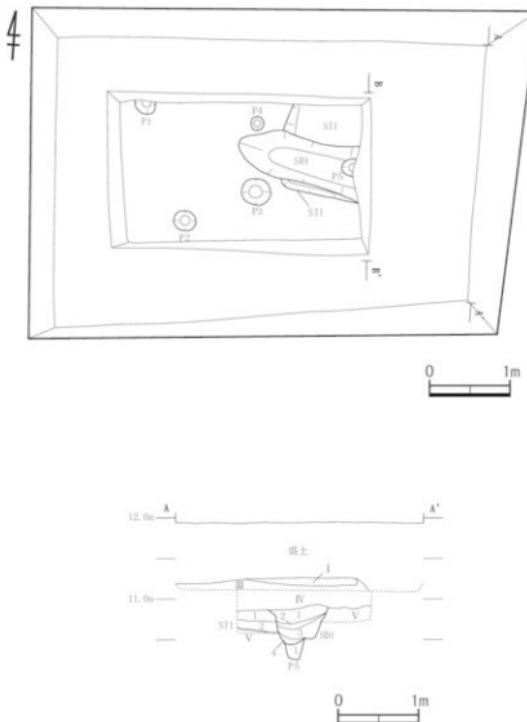


第25図 第20・21次調査区位置図(1/2,500)

2. 調査に至る経過と調査方法

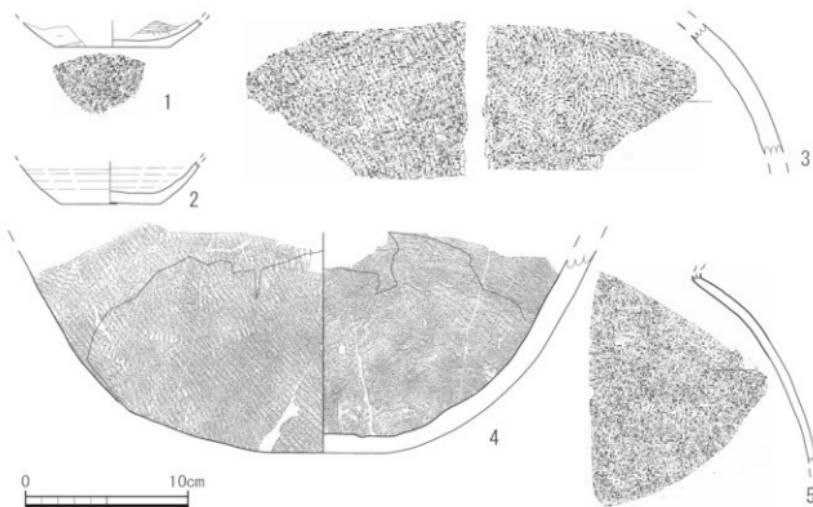
今回の調査は申請者より平成25年11月6日付で提出された、「埋蔵文化財発掘の届出」(平成25年11月12日付H25教生文第123-315号で回答)に基づき実施した。確認調査は平成25年12月3日に着手した。申請者側が設定した建築範囲に、6×4mの調査区を設定し、重機により盛土および基本層1層およびⅢ層を掘削した。地表下0.9mのⅣ層で遺構確認作業を行い、層中より須恵器壺胴部破片などの遺物が出土した。第26図 第20次調査区配置図(1/400)が、遺構は確認できなかった。さらに安全のため幅1mの段をつけ、調査区内に4×2mの範囲をGL-1.4mまで掘削し、V層上面で遺構確認作業を行ったところ、堅穴遺構などの遺構を検出した。平面図(S=1/40)、調査区





| 基本土層 | | | | 備考 |
|------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----|
| 剖位 | 色調 | 土質 | | |
| 1 | N4.0灰色 | 粘土質シルト | 底面に酸化鉄沈殿、グライ化 | |
| 黒 | 10YR5-4にぶい黒褐色 | 粘土質シルト | | |
| B | 10YR4-3にぶい黒褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色土を斑状に含み、粒2~5mmの炭化物粒を微量含む | |
| V | 10YR6-6明黄褐色 | 砂質シルト | 粒2~10mmの炭化物粒を微量含む | |
| d | 3 Y 3-2オリーブ黒色 | 粘土 | 砂を均質に含む | |
| e | 25 Y 3-1黒褐色 | 粘土 | 植物遺体を少量含み、砂を均質に含む | |
| SI1 | 1 10YR4-1褐色灰色 2 10YR3-4暗褐色 | 粘土質シルト 粘土質シルト | 粒2~3mmの炭化物粒を少量含む。 粒2~3mmの小礫を微量含む。 | |
| SD1 | 1 10YR4-3にぶい黒褐色 2 10YR4-2灰黄褐色 3 10YR4-2灰黄褐色 4 10YR4-2灰黄褐色 | 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト | 粒2~10mmの炭化物粒をやや多く含む 粒2~5mmの炭化物粒を微量含む 粒2~30mmの炭化物粒を多く含む 粒2~5mmの炭化物粒を微量含む | |

第27図 第20次調査区平面図・断面図（1/60）



第28図 第20次調査出土遺物

東壁断面図 ($S = 1/20$) を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査終了後、重機により軒圧をかけながら埋め戻しを行った。

3. 基本層序

調査区内の堆積土は大別4層を確認した。なお、今回の調査区における盛土の深さは約0.7～0.8m、遺構検出面であるV層上面までの深さは約0.9mである。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、V層上面で竪穴遺構1基、溝跡1条、ピット5基を検出した。

(1) 竪穴遺構

S I 1 竪穴遺構

調査区北東部で一部を検出した。検出したのは遺構の南西部分のみである。溝跡SD1とピットP5と重複しており、これらに切られている。カマドおよびその他の施設は確認できず、また掘り方や貼床なども認められなかったことから、住居跡か否か判別できなかったので竪穴遺構とした。検出したのは南北・東西ともに約1.0mで、壁の高さは、南壁で約0.4mである。遺物は土師器および須恵器の細片が出土したが、器形や年代が明らかなものはない。堆積土は2層を確認した。

(2) 溝跡

S D 1 溝跡

調査区北東部で一部を検出した東西方向の溝跡である。SII 垂穴遺構と P5 ピットを切っている。検出長約 23m、幅約 0.8m、深さ約 0.43m である。土師器および須恵器の細片が 1 点ずつ出土した。堆積土は 4 層を確認した。

(3) ピット

調査区内で 5 基を検出した。いずれも直徑約 0.2m、深さ 0.2m ほどである。堆積土はにぶい黄褐色 (10YR5/3) の粘土質シルトである。柱痕跡が確認されたものはない。このうち P5 のみ SII 垂穴遺構および SDI 溝跡と重複しており、これらを切っている。P5 は SII に伴う遺構であった可能性もあるが、調査ではその関係を明らかにすることはできなかった。ピットからは遺物は出土していない。

5.まとめ

今回の調査地点は大野田古墳群の北西部に位置する。調査地点の西側では、平成 22 年度に 15A 区の調査が行われ、平安時代の掘立柱建物跡 3 棟などが検出されている。東側隣接地では同じく平成 22 年度に六反田道路 7F-1(南)区の調査が行われ、古墳 1 基・木棺墓 1 基などが検出されている。また、当遺跡の北西部では、第 4 次・8 次・14 次・18 次調査区で古墳時代前期の竪穴住居跡 6 軒が確認されており、周辺には集落が展開すると推測されている（仙台市教育委員会 2010a・b）。今回の調査では、これら古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物の発見が想定された。調査では、地表下約 1.4m の基本層 V 層上面で、垂穴遺構 1 基・溝跡 1 条、ピット 5 基を検出した。このうち垂穴遺構 SII については、部分的な検出にとどまり、カマド等も発見できなかっことから、住居跡か否か確認することはできなかった。溝跡 SDI は堆積土に炭化物を比較的多く含む特徴を有するが、部分的な検出であることや出土遺物が微少なことからその性格は不明である。5 基発見されたピットは柱痕跡が確認されたものはない。このうち P1・P2・P3・P5 は、建物跡として組み合う可能性も考えられるが明確ではない。

今回の調査結果は、調査面積は限定的であるが、集落の広がりや古墳の分布域を考える上で重要な成果といえる。

参考文献

- 仙台市教育委員会 2010a 「大野田古墳群－第 18 次発掘調査報告書－」（仙台市文化財調査報告書第 364 集）
 仙台市教育委員会 2010b 「大野田古墳群第 19 次発掘調査報告」「仙台平野の道路群 XX」（仙台市文化財調査報告書第 371 集）
 藤沢教 2013 「東北の古墳と葬送」「講座東北の歴史第 6 卷生と死」 清文堂



1. 調査区全景（西から）



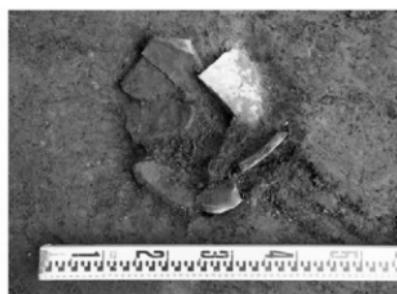
2. 調査区東壁（西から）



1. SI1・SD1 実掘状況（南から）



2. SD1 断面（西から）

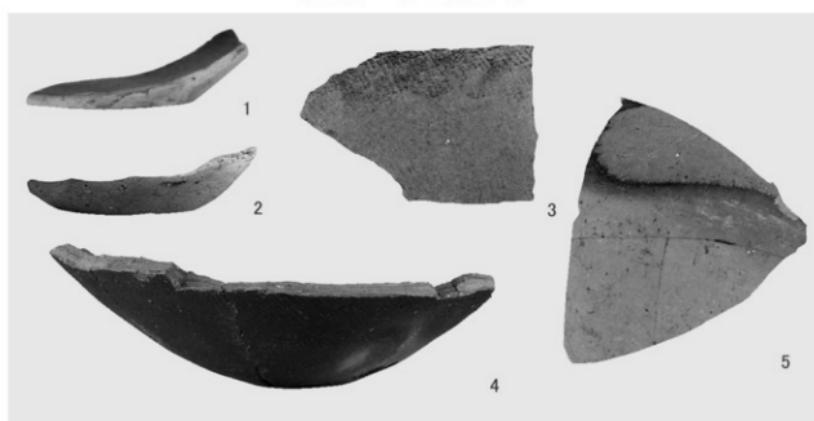


3. 基本層IV層遺物出土状況
(須恵器甕胴部、遺構外)



4. 調査区近景（北東から）

写真図版 14 第20次調査（2）

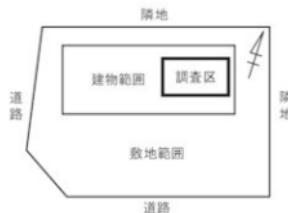


写真図版 15 第20次調査出土遺物

III. 第21次調査

1. 調査要項

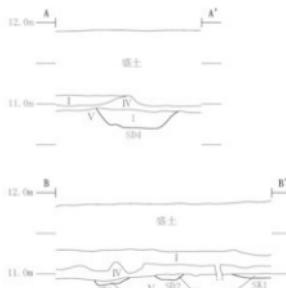
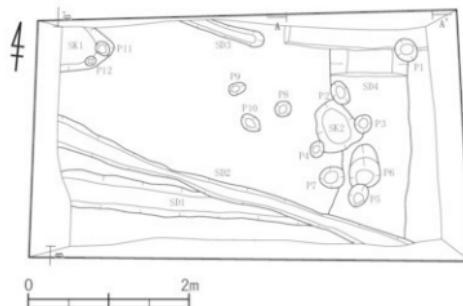
遺跡名 大野田古墳群（宮城県遺跡登録番号（01361）
 調査地点 仙台市太白区大野田字竹松 29-1・29-2・29-5・
 道路の各一部（24街区13画地）
 調査期間 平成26年5月8日～5月9日
 調査対象面積 建築面積 83.62m²
 調査面積 15.9m²
 調査原因 個人住宅新築工事
 調査主体 仙台市教育委員会
 調査担当 仙台市教育生涯学習部文化財課調査調整係
 担当職員 主事 小泉博明 文化財教諭 小山紘明



第29図 第21次調査区配置図（1/400）

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成26年1月9日付で提出された、個人住宅建築工事に伴う文化財保護法第93条「埋蔵文化財発掘の届出」(H25教生文第123-392号で回答)に基づき実施した。調査は平成26年5月8日に着手した。申請者側が表示した建築範囲東部に東西5.3m、南北3.0mの調査区を設定し、重機を用いて盛土および基本層Ⅰ層～Ⅳ層を掘削し、基本層V層上面で遺構検査作業を行った。その結果、溝跡4条、土坑2基、ピット12基を検出し、本発掘調査に移行した。検出した遺構のうち、SD4溝跡は周辺の調査結果と併せて検討すると、大野田古墳跡に関連する可能性がある溝跡と考えられた。調査では、必要に応じて、平面図および断面図を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真的撮影を行った。調査は、5月9日に調査区を埋め戻して完了した。



| | 層位 | 色調 | 土質 | 備考 |
|-----|----|-------------|--------|-------------------------------|
| SD1 | I | 25Y3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、黄褐色の粘土を粒状に少量含む |
| SD2 | I | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 黄褐色の粘土を粒状に含む |
| SD4 | I | 25Y5/2 暗灰黄色 | 粘土質シルト | |
| SK1 | I | 10YR2/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 黄褐色の粘土をブロック状に少量、炭化物を粒状にごく少量含む |

第30図 第21次調査区平面図・断面図（1/60）

3. 基本層序

今回の調査で確認した基本層は、富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査で用いられた基本層序に対応させている。

I層：宅地化以前の水田耕作土である。にぶい黄色を呈するシルトで、調査区全域に分布する。

IV層：黒褐色（10Y R 3/2）を呈する粘土質シルトである。炭化物を粒状に含み、基本層V層起源の粘土質シルトを斑状に含む。

V層：黄褐色（2.5Y5/3）を呈する粘土質シルトである。今回の調査における遺構検出面である。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査で検出した遺構には、溝跡4条、土坑2基、ピット12基がある。遺物は、基本層IV層から土師器、須恵器、金属製品が出土している。

(1) 溝跡

S D 1 溝跡

調査区南部で検出した東西方向の溝跡である。SD2溝跡に切られている。検出長は約3.10mで、さらに調査区外西へ延びる。規模は上端幅約0.40m、下端幅約0.20mで、深さ約0.05mである。断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、炭化物や地山を含む黒褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

S D 2 溝跡

調査区南部で検出した北西～南東方向の溝跡である。SD1溝跡、SD4溝跡を切っている。検出長は約4.70mで、さらに調査区外へ延びる。規模は上端幅約0.10～0.35m、下端幅約0.08～0.20mで、深さ約0.05mである。断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、地山を含む黒褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

S D 3 溝跡

調査区北部で検出した北西～南東方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約1.00mで、さらに調査区外へ延びる。規模は上端幅約0.15m、下端幅約0.15mで、深さ約0.10mである。断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、炭化物と地山を含む黒褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

S D 4 溝跡

調査区東部で検出した南北方向の溝跡である。SD2、SK2、P1～3・5～7に切られている。検出長は約2.70mで、さらに調査区外南北へ延びる。規模は上端幅約1.00m、下端幅約0.55mで、深さ約0.25mである。断面形は逆台形を呈する。堆積土は単層で、比較的均質な暗灰黄色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

(2) 土坑

S K 1 土坑

調査区北西部で検出した土坑である。ピット11・12と重複するが、新旧関係は不明である。一部の検出であることから、平面形は不明である。規模は東西0.70m以上、南北0.50mで、深さ約0.05mである。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、炭化物と地山を含む暗褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

S K 2 土坑

調査区東部で検出した土坑である。SD4溝跡、ピット群と重複し、SD4溝跡を切り、ピット群に切られている。平面形は不整規円形を呈する。規模は長軸約0.60m、短軸約0.50mで、深さ約0.12mである。断面形は逆台形を呈する。堆積土は単層で、炭化物と地山を含む黒褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

(3) ピット

調査区東部に多く分布し、12基を検出した。SD4溝跡、SK2土坑などと重複し、これらを切っている。平面形

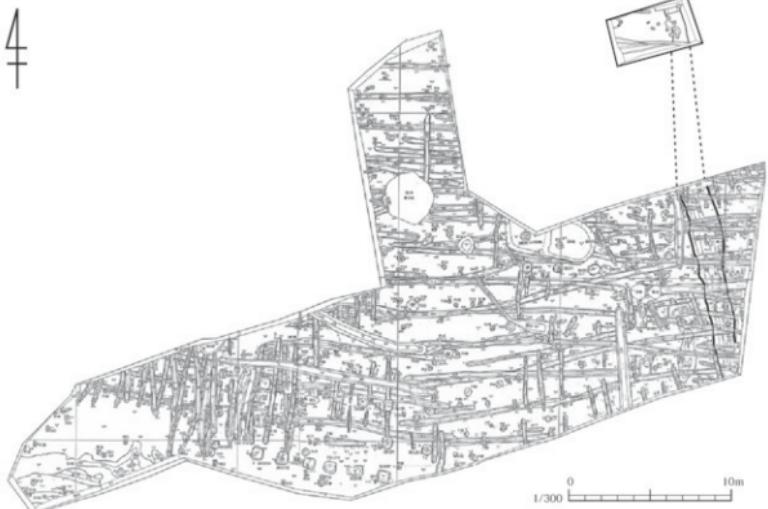
は円形もしくは梢円形を呈する。規模や深さには、ばらつきが認められ、長軸約0.15～0.50m、短軸約0.15～0.40mで、深さは約0.05～0.40mである。堆積土はいずれも單層で、炭化物や地山を含む黒褐色の粘土質シルトである。柱痕跡が認められたものはない。遺物は出土していない。

(4) 遺構外出土遺物

基本層IV層から、土師器壺が6点・甕8点、須恵器壺1点、金属製品刀子1点が出土している。いずれも小破片であるため図示可能な資料はない。



第31図 第21次調査区位置図(1/4,000)



第32図 平成22年度15A調査区・第21次調査区合成図(1/300)

5.まとめ

調査地点は、大野田古墳群の北西部に位置する。基本層V層上面で、溝跡4条、土坑2基、ピット12基を検出した。いずれも出土遺物がないことから、遺構の性格や時期を明確にすることはできなかった。しかし、SD4溝跡については、同様に出土遺物はなかったが、位置や規模、堆積土の状況から、平成22年度に行われた南側道路部分の調査で検出された、大野田古墳群15A区のSD125溝跡との連続する遺構である可能性がある。



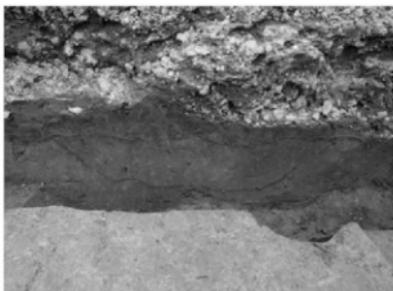
1. 調査区全景（東から）



2. 調査区西壁断面（東から）



3. SD4 溝跡検出（南から）



4. SD4 溝跡断面（南から）

写真図版 16 第21次調査

第3節 大野田官衙遺跡

I. 遺跡の概要

大野田官衙遺跡は、宮城県仙台市太白区大野田に所在する。JR 仙台駅の南約 5.2km に位置し、名取川と荒川に挟まれた自然堤防上に立地する。遺跡の範囲は、東西約 0.19km、南北約 0.26km で、標高は約 10 ~ 12m である。

周辺には元袋遺跡、袋前遺跡、六反田遺跡、大野田古墳群、王ノ塙遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡、伊古田 B 遺跡などが隣接して分布し、平成 6 年度以降、土地区画整理事業に伴い、継続して発掘調査が行われている。これまでの調査では、縄文時代、古墳時代、古代の集落跡が確認され、さらに古墳時代の石棺墓や木棺墓、円墳、平安時代の水田跡も調査されている。

大野田官衙遺跡は、地下鉄宮沢駅周辺の土地区画整理事業に伴う発掘調査の中で発見された官衙遺跡である。平成 21 年度には、官衙関連遺構が確認されている範囲が「大野田官衙遺跡」として登録されている。これまでの調査で、6 棟の大型掘立柱建物跡とそれを方形に開む溝跡が確認されている。発見された 6 棟の掘立柱建物跡は、概ね真北を基準とする南北棟で、規則的に配置されている。東西列の建物は、構造や規模を同じくする掘立柱建物跡が向かい合って配置される。その最も北側の建物の間には東西中軸線上に、さらに建物が配置されている。さらに溝跡に区画された内部には、東西方向の溝跡が確認されており、内部が南北に区画されていた可能性がある。

これら大野田官衙関連遺構の遺物出土量は比較的少ないが、遺跡の位置関係や建物の基準が真北で共通することから、7 ~ 8 世紀初頭の陸奥国府と推定される郡山遺跡Ⅱ期官衙との関連性が指摘されている。また、その廃絶時期については、出土遺物の検討から 8 世紀初頭あるいは 8 世紀中葉と考えられている。

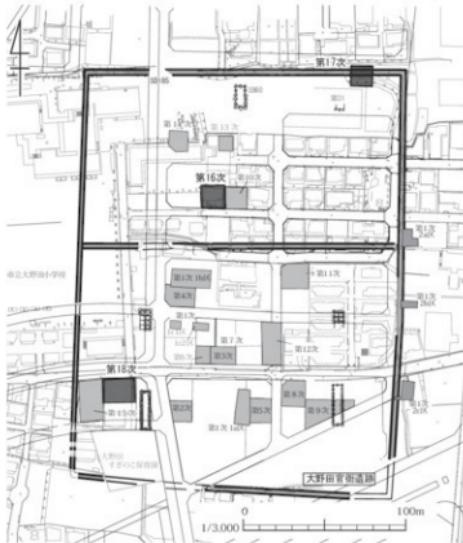
II. 第16次調査

1. 調査要項

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 遺 跡 名 | 大野田官衙遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01566) |
| 調査 地 点 | 仙台市太白区大野田字袋前 30-21 (9 街区 7 画地) |
| 調査 期 間 | 平成 26 年 1 月 27 日 |
| 調査 対象面積 | 建築面積 79.06m ² |
| 調査 面 積 | 16.0m ² |
| 調査 原 因 | 個人住宅新築工事 |
| 調査 主 体 | 仙台市教育委員会 |
| 調査 担 当 | 仙台市教育生涯学習部 文化財課調査調整係 |
| 担 当 職 員 | 主事 黒田智章 文化財教諭 千葉靖彦 |

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成 25 年 12 月 3 日付で提出された、「埋蔵文化財発掘の届出」(平成 25 年 12 月 11 日付 H25 教生文第 123-354 号



第33図 大野田官衙遺跡全体図 (1/3,000)

で回答)に基づき実施した。確認調査は平成26年1月27日に着手した。申請者側が設定した建築範囲に、4×4mの調査区を設定し、重機により盛土および基本層Ⅰ層(現代水田耕作土)を掘削した。わずかに残るⅣ層の下のⅤ層上面で遺構確認作業を行い、土坑1基を検出した。平面図(1/40)、調査区東壁柱状図(1/20)を作成し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査終了後、重機により転圧をかけながら埋戻しを行った。

3. 基本層

調査区内の盛土は約1.6mで、盛土以下の堆積土は大別3層を確認した。確認した基本層は、富沢駅周辺の発掘調査で用いられた層位に対応させている。今回の遺構検出面である基本層Ⅴ層上面までの深さは約1.8mである。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、基本層Ⅴ層上面で土坑を1基検出した。

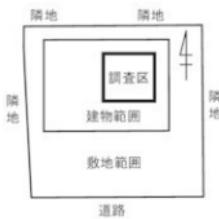
(1) 土坑

S K1 土坑

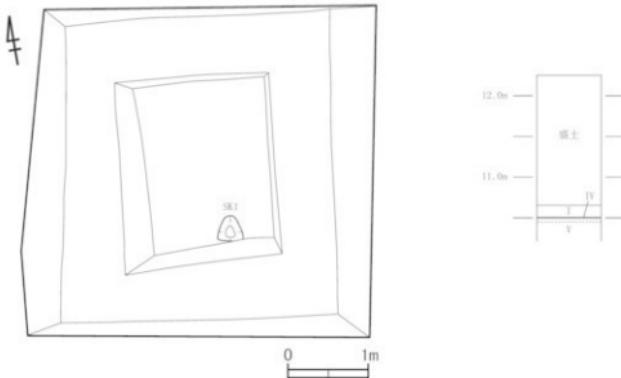
調査区南壁際で検出した土坑である。平面形は不整円形で、長軸約0.35m、深さ約0.10mである。堆積土は1層を確認した。遺物は出土していない。なお、基本層Ⅴ層中から土師器の細片が数点出土しているが、遺存状態も悪く、年代が分るようなものではない。

5. まとめ

今回の調査地点は、大野田官衙遺跡の中央部に位置する。当該地周辺は、平成21年度・22年度に六反田遺跡6C・6D-I・6D-2区として調査されているが、遺構密度は低く、官衙に関連する遺構は検出されていない。今回の調査では、基本層Ⅴ層上面で小規模な土坑を1基検出したにとどまり、官衙関連の遺構・遺物は確認できなかった。



第34図 第16次調査区配置図(1/400)



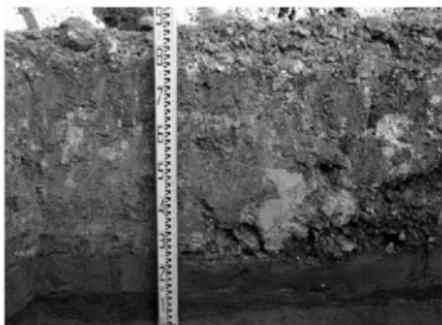
| 層位 | 色調 | 土質 | 備考 |
|----|----------------|--------|---------------------------|
| I | 10YR5/4に赤V・黄褐色 | 粘土質シルト | 一部グライ化。下層に炭化鉄分を含む。旧水田耕作土。 |
| II | 10YR2/3黒褐色 | 粘土質シルト | |
| V | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | 上師器細片数点出土 |

| | | | |
|------|---------------|--------|----------------------------------------|
| S K1 | 1 10YR2/3 黑褐色 | 粘土質シルト | 10~20mmの黄褐色シルトブロックを少量、径2~4mmの炭化物粒を微量含む |
|------|---------------|--------|----------------------------------------|

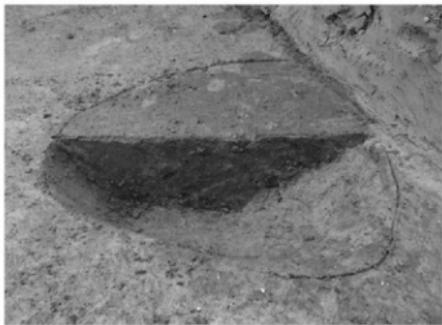
第35図 第16次調査区平面図・断面図(1/60)



1. 調査区全景（西から）



2. 調査区東壁（西から）

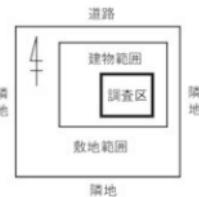


3. SK1 断面（西から）

III. 第17次調査

1. 調査要項

| | |
|--------|-------------------------------------------------------|
| 遺跡名 | 大野田官衙遺跡（宮城県登録遺跡番号 01566） |
| 調査地点 | 仙台市太白区大野田字袋前 22 の一部他 4 筆 |
| 調査期間 | 平成 26 年 4 月 17 日 |
| 調査対象面積 | 建築面積 65.83m ² （敷地面積 165.64m ² ） |
| 調査面積 | 16.0m ² |
| 調査原因 | 個人住宅新築工事 |
| 調査主体 | 仙台市教育委員会 |
| 調査担当 | 仙台市教育生涯学習部文化財課整備活用係 |
| 担当職員 | 調査調整係 文化財教諭 千葉悟 早坂純一 |



第36図 第17次調査区配置図 (1/400)

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成 26 年 4 月 4 日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成 26 年 4 月 9 日付け H26 教生文第 106-11 号で回答）に基づき実施した。

調査は平成 26 年 4 月 17 日に着手した。建築範囲内に東西 4m × 南北 4m の調査区を設定し、重機（BH025）により盛土層を除去する予定であったが、掘削した結果碎石層の厚さが 220cm であった。安全対策のため調査区内に段差を設けて掘削し、実際の調査区は東西 2m × 南北 2m である。

碎石層直下の粘土層上面で、平面的な精査を行ったが、上面からタイルやストローの破片などが見つかったため、サブトレーナーを設定しさらに人力で掘り下げを行った。最大 3m まで掘り下がたが、基本層の確認はできなかった。写真撮影と平面図 (1/40) および調査区東壁柱状図を作成した。埋め戻しは同日中に締め固めを行いながら実施し、調査を終了した。

3. 基本層序

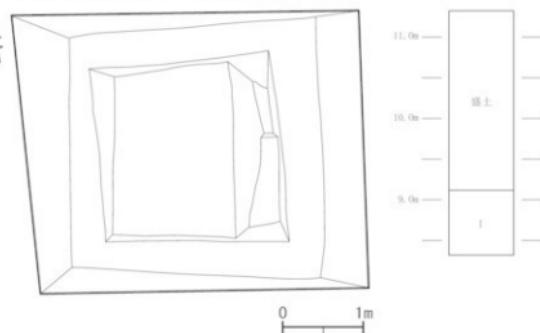
今回の調査で基本層の確認はできなかった。GL -220cm までが碎石層であり、GL -220cm ~ 300cm が粘土層である。粘土層は 5Y6/2 の灰オーリープで一部グライ化し、下層は 2.5Y6/2 の砂をラミナ状に含んでいる。

4. 発見遺構と出土遺物

遺構・遺物は検出できなかった。

5. まとめ

今回の調査地点は、大野田官衙の北東に位置し、大野田官衙の北辺の溝にあたる場所に位置する。碎石層下の粘土層は、下層に砂の水成堆積が見られるため、年代は特定できないが水路の可能性がある。なお、官衙北辺の溝は確認できなかった。



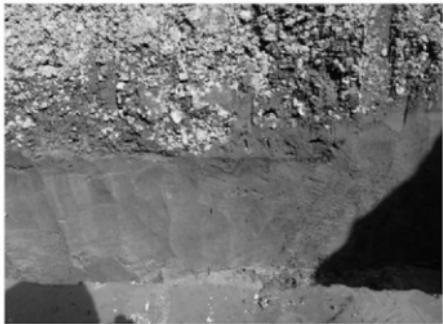
第37図 第17次調査区平面図・断面図 (1/60)



1. 完掘全景（西から）



2. 調査区東壁（1）（西から）



3. 調査区東壁（2）（西から）

IV. 第18次調査

1. 調査要項

遺跡名 大野田官街遺跡（宮城県遺跡登録番号 01566）

調査地点 仙台市太白区大野田字竹松 25-2、25-3、25-6、道路の各一部

（仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業 25街区 9画地）

調査期間 平成26年4月18日（金）～4月22日（火）

調査対象面積 建築面積 106.08m²

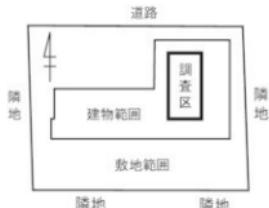
調査面積 28.0m²

調査原因 個人住宅新築工事

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係

担当職員 主任 鈴木隆 主事 小林航



2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成26年4月9日付H26教生文第106-14号で回答）に基づき実施した。確認調査は平成26年4月18日に着手した。建築範囲内に4×7mの調査区を設定し、重機により盛土・基本層I層を掘り下げた後、基本層V層上面で遺構検出作業を行い、竪穴住居跡1棟、ピット1基、性格不明遺構1基を検出し、竪穴住居跡では軽跡を確認した。V層上面と遺構からは土師器片が出土した。今回の調査では、必要に応じて調査区の平面図（S=1/20、1/40）、遺構断面図（S=1/20）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査区は重機により転圧しながら埋戻しを行い、平成26年4月22日（火）に全ての調査を終了した。

3. 基本層序

基本層は2層を確認した。GL-70cm程度までが盛土であり、その下に15cmほどの厚さで基本層I層が堆積し、その下に基本層V層が確認されている。周辺の調査で確認されている基本層IV層は確認されなかった。なお、確認した基本層は、富沢駅周辺の発掘調査で設定された層位に対応させている。

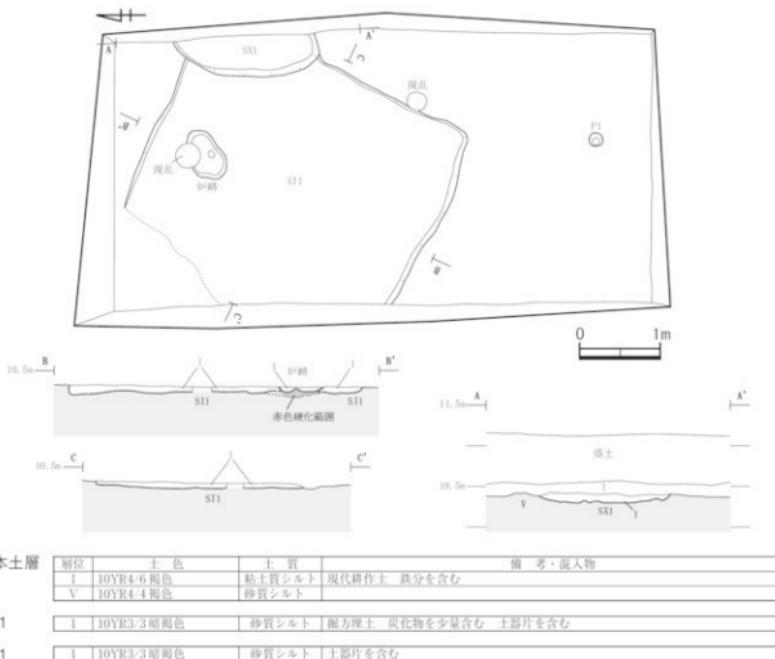
4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では竪穴住居跡1軒、性格不明遺構1基、ピット1基を検出した。遺物はV層上面および遺構から土師器片が出土している。

(1) 竪穴住居跡

S I I 竪穴住居跡

調査区北部で検出された。調査区北東部でSX1性格不明遺構に切られている。全体的に削平されており、床面はなく、掘方理上のみ確認された。SI1の北西部では、掘方の底面まで削平が及んでいるため、住居跡の立ち上がりは確認できなかった。検出された規模は南北約420cm、東西約310cmである。平面形は隅丸形を呈していたものと考えられる。掘方理上は1層のみ確認した。残存する深さは最大で約12cmである。住居跡の北寄りで、軽跡を確認した。平面形はやや変形した楕円形で、規模は南北約50cm、東西約60cmである。炉跡の底面で、赤色硬化面を確認した。遺物は二重口縁を有する壺の口縁部破片（第40図1）および壺の体部破片（第40図2）が掘方理上より出土している。



第39図 第18次調査区平面図・断面図・SIIベルト断面図

(2) 性格不明遺構

S X 1 性格不明遺構

調査区東壁に沿って検出された。SII 堆穴住居跡を切っている。検出された規模は南北約 180cm、東西約 50m、深さ約 10cm である。遺構の一部のみの検出であり、遺構全体の規模などの詳細は不明である。堆積土は 1 層である。遺物は塙釜式とみられる。

(3) ピット

P 1 ピット

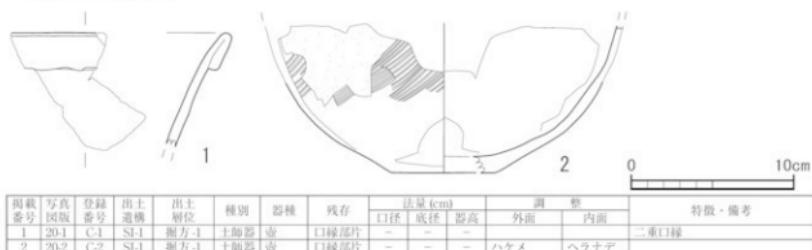
調査区南側で検出された。平面形は円形を呈する。直径約 16cm、深さは約 18cm である。堆積土は 1 層であり、柱痕や遺物は検出されなかった。

5.まとめ

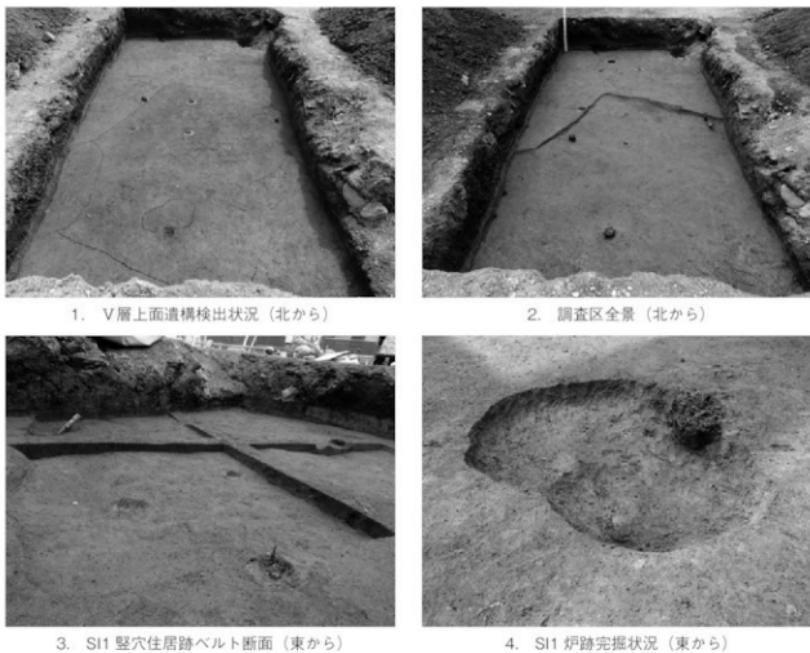
今回の調査地点は、大野田官衙遺跡の南西部に位置する。今回の調査では堆穴住居跡 1 軒、性格不明遺構 1 基、ピット 1 基を検出した。富沢駅周辺の発掘調査で確認された基本層 II ~ IV 層が検出されないことや、堆穴住居跡の残存状況などから、V 層上部まで近現代の耕作等により削平を受けたものと考えられる。

遺構の時期は、SII 堆穴住居跡、SXI 性格不明遺構に伴う出土遺物に、古墳時代前期（塙釜式期）の二重口縁をもつ甕がみられることから、4 世紀代と考えられる。

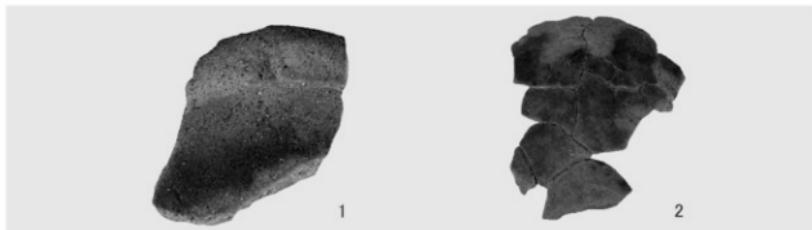
第3節 大野田官衙遺跡



第40図 第18次調査出土遺物



写真図版 19 第18次調査



写真図版 20 第18次調査出土遺物

第4節 郡山遺跡



| 道路名・調査次数 | 調査地区 | 調査面積 | 調査期間 | 調査原因 | 対応 |
|------------|---------|-------------------|-------------------|--------|-----------|
| 郡山道路 第251次 | Ⅱ期官街北西部 | 158m ² | 平成26年4月3日 | 個人住宅建築 | 郡山道路はか・調査 |
| 郡山道路 第252次 | Ⅱ期官街南部 | 160m ² | 平成26年4月10日 | 個人住宅建築 | 郡山道路はか・調査 |
| 郡山道路 第253次 | 郡山道路西側 | 165m ² | 平成26年5月12日～5月16日 | 建売住宅建築 | 郡山道路はか・調査 |
| 郡山道路 第254次 | 郡山道路南西側 | 18m ² | 平成26年8月4日～8月15日 | 個人住宅建築 | 郡山道路はか・調査 |
| 郡山道路 第255次 | Ⅱ期官街東側 | 20m ² | 平成26年12月2日～12月12日 | 個人住宅建築 | 郡山道路はか・調査 |

第41図 郡山遺跡調査区位置図 (1/6,000)

第5章 総括

平成25年度終盤（平成26年2月1日～3月31日）の調査件数は6遺跡6件、平成26年度4月1日～2月28日に実施した調査件数は14遺跡27件で、計17遺跡33件となる。最も多いのは太白区で10遺跡17件あり、全体の約半数を占める。他は、多い順に若林区3遺跡9件、宮城野区2遺跡5件、泉区1遺跡1件、青葉区1遺跡1件である。各区の調査成果は以下のとおりである。

1 泉区内の調査

調査は、松森城跡の1件のみである。特に遺構・遺物の出土は無く本書での掲載はない。

2 青葉区内の調査

調査は、土舗遺跡の1件のみである。特に遺構・遺物の出土は無く本書での掲載はない。

3 宮城野区内の調査

調査件数は、洞ノ口遺跡2件、鴻ノ果遺跡3件の計5件である。

(1) 洞ノ口遺跡

第21次調査の成果を掲載した。調査では、溝跡1条、土坑1基、井戸跡1基、ピット2基を検出した。溝跡は屋敷あるいは城館に伴う区画溝の可能性がある。遺物は、13～14世紀を中心とする在地、非在地の中世陶器および中国龍泉窯系の青磁碗が出土した。中世の屋敷に伴う遺物と考えられる。

4 若林区内の遺跡

調査件数は、南小泉遺跡が7件と最も多く、次いで神櫛遺跡1件、保春院前遺跡1件である。

(1) 神櫛遺跡

第2次調査の成果を掲載した。調査では、堅穴住居跡1軒、溝跡1条、土坑1基を検出した。このうち堅穴住居跡に伴う2基のカマドには、在地の典型例と異なり、比較的長く延びる煙道がなく、壁の外側へ燃焼部が張り出す特徴が認められた。遺物は、特に須恵器の割合が高く年代は8世紀後葉と考えられる。今回の調査では、改めて本遺跡が通常の一般集落とは異なる特徴を有することが明らかとなった。

5 太白区内の調査

調査件数は、六反田遺跡、大野田古墳群、大野田官衙遺跡が各3件と多く、郡山遺跡が2件で、西白畠遺跡、袋東遺跡、元袋遺跡、大野田遺跡、上野遺跡、安久東遺跡が各1件である。

(1) 六反田遺跡

第12・13次調査の成果を掲載した。第12次調査では堅穴住居跡1軒、住居内で土坑1基、ピット3基を検出した。遺物は、堅穴住居跡から8世紀を主体とする土師器、須恵器の他、刀子や小型手斧の可能性がある鉄製品、砥石などが出土した。第13次調査では、堅穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット1基を検出した。このうち堅穴住居跡のカマドには、長さ1.1mの煙道は付くものの、在地の典型例と異なり、燃焼部が住居の外側に張り出す特徴が認められた。年代は8世紀代と推定される。

(2) 大野田古墳群

第20・21次調査の成果を掲載した。第20次調査では堅穴遺構1基・溝跡1条、ピット5基を検出した。第21次調査では溝跡4条、土坑2基、ピット12基を検出した。いずれも遺構からの出土遺物がなく、その年代は不明である。南北方向に延びるSD4溝跡については、周辺でもその延長が確認されている。

(3) 大野田官衙遺跡

第16～18次調査の成果を掲載した。3箇所とも官衙に伴う遺構は確認されなかった。なお、第18次調査では古墳時代前期の堅穴住居跡1軒の他、性格不明遺構1基、ピット1基を検出した。

報告書抄録

| ふりがな | せんだいへいやのいせきぐる | | | | | | |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------|------------------------|-------------------------|--------------------|------------------|
| 著者名 | 仙台平野の遺跡群 25 | | | | | | |
| 期名 | 平成 26 年度個人住宅他団体補助対象事業に伴う発掘調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ名 | 仙台市文化財調査報告書 | | | | | | |
| 巻次 | 55 | | | | | | |
| シリーズ名 | 仙台市文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第 437 篇 | | | | | | |
| 編著者名 | 平間亮輔・鈴木隆・小泉博明・黒田智章・小林航・千葉悟・早坂純一・千葉清彦 | | | | | | |
| 編集機関 | 仙台市教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒 980-0811 仙台市青葉区一番町 4 丁目 1-25 東二番丁スクエア 3 段 TEL: 022-214-8894 | | | | | | |
| 発行年月日 | 平成 27 年 3 月 31 日 | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | | 特記事項 |
| 要約 | | | | | | | |
| 剥ノ口遺跡 (第 21 回) | 仙台市宮城野区岩切字剥ノ口 | 4100 | 01372 | 38° 18'11" 140° 57'11" | 2014.9.1 2014.9.3 | 16m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 集落跡・城館跡・屋敷跡・木田路 | 古墳～近世 | 溝跡・土坑・井戸跡 | 陶器・磁器 | | | |
| 神櫛遺跡 (第 2 回) | 仙台市若林区沖野二丁目 | 4100 | 01251 | 38° 13'44" 140° 54'38" | 2014.2.10 2014.2.20 | 15m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 建物跡、包地 | 奈良・平安 | 堅穴住居跡・溝跡・土坑 | 須恵器・瓦 | | | |
| | 堅穴住居跡 1 基 (8 世紀後半)、溝跡 1 条、土坑 1 基を検出した。堅穴住居跡からの出土遺物は須恵器の割合が高く、本遺跡が通常の集落とは異なる特徴を有することが明らかとなった。 | | | | | | |
| 六反田遺跡 (第 12 回) | 仙台市太白区人野田字六反田 | 4100 | 01189 | 38° 12'59" 140° 52'24" | 2013.11.27 2013.12.6 | 14m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 集落跡 | 縄文～古代・古墳 | 堅穴住居跡・溝跡・土坑 | 土師器・須恵器・石製品・金属製品 | | | |
| 六反田遺跡 (第 13 回) | 仙台市太白区人野田字六反田 | 4100 | 01189 | 38° 12'35" 140° 52'20" | 2014.3.3 2014.3.10 | 20m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 集落跡 | 縄文～古代・古墳 | 堅穴住居跡・溝跡 | 土師器 | | | |
| | 堅穴住居跡 1 基 (8 世紀)、住居内土坑 1 基、ピット 3 基を検出した。堅穴住居跡からは、土師器、須恵器の他、銅製の刀子や矛先とみられる製品、砥石など多様の遺物が出土した。 | | | | | | |
| 大野田古墳群 (第 20 回) | 仙台市太白区人野田字六反田 | 4100 | 01189 | 38° 12'35" 140° 52'20" | 2014.3.3 2014.3.10 | 20m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 古墳 | 古墳 | 堅穴住居跡・溝跡 | 土師器 | | | |
| | 堅穴住居跡 1 基 (8 世紀)、溝跡 6 条、ピット 1 基を検出した。 | | | | | | |
| 大野田古墳群 (第 21 回) | 仙台市太白区人野田字竹松 | 4100 | 01361 | 38° 12'57" 140° 52'24" | 2013.12.3 2013.12.5 | 24m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 古墳 | 古墳 | 堅穴住居跡・溝跡 | 土師器・須恵器 | | | |
| 大野田古墳群 (第 21 回) | 仙台市太白区人野田字竹松 | 4100 | 01361 | 38° 12'57" 140° 52'26" | 2014.5.8 2014.5.9 | 15.9m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 古墳 | 古墳 | 溝跡・土坑 | 土師器・須恵器・金属製品 | | | |
| | 溝跡 4 条、土坑 2 基、ピット 12 基を検出した。 | | | | | | |
| 大野田古衛門跡 (第 16 回) | 仙台市太白区大野田字袋前 | 4100 | 01566 | 38° 13'1" 140° 52'33" | 2014.1.27 | 16m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 官衛跡 | 古代 | 土坑 | 遺物なし | | | |
| 大野田古衛門跡 (第 17 回) | 土坑 1 基を検出したが、官衛周辺の遺構、遺物は検出されなかった。 | | | | | | |
| | 仙台市太白区大野田字袋前 | 4100 | 01566 | 38° 13'3" 140° 52'37" | 2914. 4.17 | 16m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 官衛跡 | 古代 | 遺構なし | 遺物なし | | | |
| 大野田古衛門跡 (第 18 回) | 官衛周辺の遺構、遺物は検出されなかった。 | | | | | | |
| | 仙台市太白区大野田字袋前 | 4100 | 01566 | 38° 12'57" 140° 52'31" | 2014.4.18 2014.4.22 | 28m ² | 記録保存 (個人住宅建築) |
| | 官衛跡 | 古代 | 堅穴住居跡 | 土師器 | | | |

仙台市文化財調査報告書第437集
仙台平野の遺跡群25

平成26年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

2015年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区一番町4丁目1-25

東二番丁スクエア

文化財課 TEL 022 (214) 8894

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

仙台市宮城野区若竹三丁目1-14

TEL 022 (231) 22450
